八雲龍守
一葉舍仙甚　校訂

校正

七部集

東昌軒藏板

凡例

一世よ俗諧のもてあそびとなりてより茂しこのかた多くの巻ハ芭蕉翁正風の一道と世ふひろめんとおもふこのふ門人の推尊とそこれ撰集なりくるものハ俱翁のこゝろをもんとまる者くかれらも悉濫とを一さ書ハもつてふ今流布の印本いつれも粗濫ハて書字の誤多くこれ為ふ勿意きこゝろされ越ひと拾く者もくれらもよりくこゝひ元禄の古板いふもきちく真蹟及ひ諸集と参考し諸家の高説ふよつて悉く誤とこもて故ふ校正七部集とい

一假字つゝひハ古學に因て西もちゐることも俗談俚言ふいくりてハ西もふすれくも音の近きふもくふ

一詩題のたゝひハ元禄の古板といとも俗字脱字あるそ本書に就て正も

一校正もつらを法元らとも猶誤あハ予ら草能とゆてとゝ(ゆ)く速ふ改正もまる色ハかのふ和水色年辛亥孟春あ川ま氏大城のもと中橋の浄しつゝ(ゝ)もそ記

紫園誌守

乾の巻

春の日　初丁より六丁まで
その日　七丁より十二丁まで
ひさご　十三丁より十八丁まで
猪養　十九丁より廿三丁まで
續猪養　廿四丁より廿七丁まで

坤の巻

阿羅野　初丁より二十八丁まで
炭俵　廿一丁より卅二丁まで

春の日

曙えんとくの戸ぬきあらく
熱田のうらふかきぬ波しら毎ちる
しらすかの比善行のうらもとをすり
ていとたちかへり重五ゝ枝折おりる
竹墻なりもちきふるもとよりもちの
字きとかわかい出ける

荷兮

二月十八日

まめくもくさ〳〵の行雲あり　連　重五
猫ちる中馬なこりうく　紙を　西桐
山のたむ身一所うり　李風
燈なりの方ふあるるかり
ちかふふくきけを路ゝ　昌圭
くもりふ沖の岩ゝえ　執筆
順慶寺ふ汗の帷子の雨　重五
かの〳〵海岸といあく〳〵　荷兮
文王のこの中ふもふ土つるく　李風

雨の雫の角のなき草　雨桐
机をし一度ハ骨を折とく世に　荷兮
傾城乳をかくす晨明　昌圭
霧はらふ鏡に人の影うつる　雨桐
わやくしたりし弥輿のつく里　重五
鳥居より半道奥の砂行て　昌圭
花に出男の帯きるある法　李風
柳よき淡さくらに鞠まはや　重五
二
入かゝる日り蝶いそくなり　荷兮
ほつかりと麦ふくる家に連待て　李風
うのか情り梓きしみる　雨桐
黒髪とたちめるわに切おとし　荷兮
いともこしこさき女信の針目　昌圭
松の木に宮日の門ハうつふしく　雨桐
もとしの紅も見えぬ時るそ　重五
朝朗豆腐を鳶にとらせける　昌圭
念仏さふるに秋あさきなり　李風
穂蓼生ふ蔵を住ゐに侘かして　重五

家名を橋の名によそる月　荷兮
傘の内を付にちかる雨の音に　李風
紙燕おかしみ出家なしく　雨桐
ウ
おとゝきはあなかしこそ言よまん　荷兮
狗飼ひと川を二人してわたる　昌圭
世にあらぬ局深ふ年よりく　雨桐
記念にからふ躍織の苣畑　重五
いく春を花と行ふいそく〳〵　昌圭
守人も見色るとりにゆく　李風

三月六日野水亭にて

なら坂や畑うつ山の八重ざくら　旦藁
おもしろうかすむかたくの滝　野水
春の旅節供なるらん袴着て　荷兮
ほそく〳〵つき清水なかの節　越人
松風にたらまぬ経の酒の酸　羽笠
賣のこしたる虫をも川月　執筆
笠白き太秦祭見たりけり　野水

菓ある法ようのるとくゆく　且菓
壹町ゆきつく二人髮剃ん　越人
先ゆのう車ゆくもち　荷兮
鶯負〳〵大津の絵ふみ　且藁
何やらまん茶屋の茶　越人
脇句あくゆもうとかやうて　羽笠
萩ふと〳〵ふを万日のもち　野水
里人ふ夢とおもとも秋の夜　越人
夢なるさ法ようり重石ゆく稲　羽笠
ちろひくる赤の根ふ花の鉢ろん　野水
湖ろをるたるの陽の山　且藁
のゝ〳〵や瓶花の枝浮野の草　越人
内侍のえらふ代くの眉の図　荷兮
おゆおふ軍の中を斤わきう　羽笠
春もこのち栗と節やよケ　野水
大幸い会佛とるうえも柳　且藁
ものと無我うよと隣ふも　越人
朝夕のふのふの拘れうゆく　荷兮

ふ古山ち日もやき麦の粉　羽笠
一ゆうる宿をるうふ寺れもや　野水
ことを魂まゆるきちゆの月　且藁
陽炎のもえのうくるまゆて　越人
ものゆ紬ゆうちふ奇いくく　荷兮
四とゆくゆうるゆふ生ちう　羽笠
力の弟とつきし中のる　野水
漣や三井の末寺の法ちふ　且藁
言ひくのをそ麦の山く　越人
えつをゝうち九日の月さむき　荷兮
ふの法とゆふゆふみちけ　羽笠

三月十六日具菓ゆ田家ふとゆうく

蛙ちゝゆ〳〵中しき森見ゆ　野水
類ゆあるちゆめのそつ　且藁
厳烹る岩水の鳥を宿ゆうく　越人
ま〳〵人とをくるる馬のる　荷兮
ゆくのる渡しの糸の月新ゆ　冬文

芦の穂を摺る　傘の蠅　勢至

且藁　野水　荷分　越人　冬文

岩のあなより蛙の音のきこえける里

且藁　野水　荷分　越人　冬文

百のりと籠焼やしん酒の一ぱう

野水　荷分　越人　冬文

ひくるさくらの枝の一ぱう

野水　荷分　越人　冬文

解てやおうん枝むもく　松

冬文

今宵は文くりてゆゝ

同十九日荷分宅ふく

咲ふきの菊ふいをうきを自家を　越人

秋の和名うつる　順　且藁

知丁の声ふ川うらに大とせぬ　冬文

別の月うなくあゝをを　荷分

行を芭四の文よりは唐傘　且藁

まゝくをの笠をむ川う　野水

二　永きりやを親と時ふ方ふん　荷分

美のる葬生るゝ月るの中　越人

行路う孤いあくく　野水

連句のゝふあくるいそう

冬文

淡垂う第押まけて音とめん　越人

岩苔とりの蕊うきをを　且藁

ひさぼうふ帛をくにけり垂ふ　冬文

蓮二枚を知洗をわの尾　越人

朝毎の露あれさふ麦俗る　且藁

基うちを送るきぬくの月　野水

風の秋を秋の日舟ふ細入を　荷分

ちゐの湊のをとう矢ひう　冬文

あらまのをとね蕊ちをぬ　野水

洗くく一期聳のをもわう　荷分

永をの家れ汲うを紀を　越人

解を答くいちふ美う代　且藁

山い花所のくをを於人日　冬文

くのくをてく後を崖ひくう　荷分

追加

三月十九日舟泉亭

山吹のあくれを迴のくれふ　越人

蝶水はなとうはるゝ岩そし　舟浪
きたりてさやかに晴霞そ雪あるく　聽雪
り幸のうんそり流ふち　蠡鼎
親りと雪もの川流のつめ〳〵く　荷分
見れなと雪れ門をやくあを　執筆

昌陸ハ里ナ法服ノ美ヲ言ヘリ

春

昌陸の松とハ古めぬ古代の春　利重
元日の出れるの競馬見るし　重五
初春のをと牛れ　昌圭
うとのもはうれかなと日ふ　雨桐
門を松苔菜園のをさむ〳〵　舟泉
鯉の書ふ梅の雪〳〵梅白し　羽笠
舟〳〵の中松山雪のはりうを　且菓
喝の人氣牡丹雪ふたらきうり　杜國
物でをそ元日里の朦うれ　羅々
早をを〳〵〳〵うんまぬをのをのを　呑霞
うてをも中松雪ふ〳〵ん牛の爰　聽雪

芍藥ハ恩ヒ見徳ノ別荘ノ名ナリ

朝日二分柳のうをく白ふ　荷分
先俗て野の東ひうをく雪の松　公
芍藥をてこけて酒わをを驅うぬ　且菓
のうれをる人の作〳〵ぬく
うをく出ふ白雪のをし夕うをみ　越人
古池や蛙飛こむみの書　芭蕉
命年法の腰り胡蝶のやうふ　重五
山を花墻根〳〵の酒をやし　亀洞
花ふうつもれて雪をふ丸ふ　越人

春野吟

是帰り燈を曲る尾ふ川　杜國
ふかと寺うれぬわのふさふ　李風
振乗まて物の迷をなうれ　荷分

餞別

爰の花〳〵川ふく別の越人
山烟の茶つをうさん夕日ふ　重五
はふうの小春られぬ松をを雪　公

[illegible]の山ちるの尾ハもち　九日
[illegible]くめる秋ふ　李孔
かつこ鳴る柿屋の背そのの一足塚　越人
うれしさハまつうれ梅の一ツふ　杜国
あ行のうらふこうこ者の邪　亀洞
傘をとこまで寒ゑる秋こなな　舟泉

武蔵坊とうつ坊

[illegible]のけやもてもくこの花川　商露

[illegible]の秋ハ[illegible]ふ[illegible]ふ

馬のこくはれうこ[illegible]の月　聽雪

老聃曰知足之足常足

夕ゝわふ新炊あつき[illegible]ふ　越人
幕市の塚雨こわれ[illegible]ふ　柳雨
はこ[illegible]ハ[illegible]ふ[illegible]ふ　壁交
蓮茶ハ酒ふ分[illegible]き花のいろ　荷兮
[illegible]の[illegible]こ[illegible]ふ　仝
[illegible]の長[illegible]屋の[illegible]ふ　昌圭
長川の寺ふ家の[illegible]ふ　重五

譬喩品ノ三界無安猶如火宅
とうつる心を　越人

六月の汗のうこ居ふ基ふ

秋

[illegible]の[illegible]　且藁

一貧家の[illegible]ふ

[illegible]ゆ[illegible]ふ　越人
[illegible]ふ　雨桐
[illegible]ふ　芭蕉
[illegible]ふ　越人
[illegible]ふ　野水

八島をかくる屋風の[illegible]

[illegible]の[illegible]　仝

待恋

[illegible]　荷兮

閑居増恋

[illegible]ふ　仝
[illegible]　舟[illegible]

冬

馬はぬれ牛は夕日の村しくれ　杜国

芭蕉翁を宿し侍りて

霜寒き旅寐に蚊屋を着せ申　大垣住 如行

雪のちる蘆の[illegible]　昌碧

[illegible]雪の[illegible]　芭蕉

[illegible]の[illegible]　越人

芭蕉翁をおくりてかへる時

この比の氷ふみわる名残かな　杜国

隠士にかりれる室をまうけて

[illegible]　荷兮

貞享三丙寅年仲秋下浣

冬の日

笠は長途の雨にほころひ帋衣はとまりとまりのあらしにもめたり侘つくしたるわひ人我さへあはれにおほえけるむかし狂哥の才士此国にたとりし事を不図おもひ出て申侍る

狂句こからしの身は竹斎に似たる哉　芭蕉

たそやとはしるかさの山茶花　野水

有明の主水に酒屋つくらせて　荷兮

かしらの露をふるふあかむま　重五

朝鮮のほそりすゝきのにほひなき　杜國

ウ

日のちりちりに野に米を苅　正平

我庵は鷺にやとかすあたりにて　野水

髪はやすまをしのふ身のほと　芭蕉

いつはりのつらしと乳をしほりすて　重五

きえぬそとはにすこすことなく　荷兮

影法のあかつきさむく火を焼て　芭蕉

あらしはいとふきえ〜虚家　杜國
田中なるこまんの柳蔭なるころ　荷兮
青ふくるゆ引人をちんをう　野水
はをうれを拾ふまわるる月わたし　杜國
見れうきうしき所　ふりあ屋る　重五
二の尾ふを猪の花のさうきく　野水
蛙ハむくふとをの鳥この音　芭蕉
二のりあふ虎遠鶏なほろある　重五
今を服の矢ををれ川こうえ　荷兮
ぬを人の祀会の松の欲ををく　芭蕉
ちを〜家紙の名を付〜ふ　杜國
笠ぬををて寄ひふあるわ附る　荷兮
をうを見うけく ひとう夏苣　野水
ちうくと雑うく人の青うの　杜國
鳥城ハえひちの国のうこのこ　重五
あをれさの徒ふれをけ〜新云　野水
秋ハ一汁ちりつくを拾て　芭蕉
日乗の雪白う惰ふ月をんく　重五

巾ふ水楼ををさむ琵琶ち　荷兮
うしの泣をうを函　芭蕉
義〜鏡の笑をいあ〜戎　杜國
ワのいのをあけうこの星をむく　荷兮
をふハいちのうをのまうをうき　野水
綾泣をく底湯ふを愛の花漏て　杜國
廊下ハ愛のうけはをふあり　重五

おもふこの仕年

いまこの世ハ　埜水
ちゝ川をのこをこうを待きこのる
をおふまこをる　幕ト　食　杜國
ゆを業ゆてうゝ川西ある坊の羽をれて　芭蕉
うつうををれをうまひをうう　荷兮
麻呂ウ日神ふ鶯教をふ　重五
極花ををあるを負徒ウ蛙　正平
るこ拾る波音の田鶏ゆこを　杜國
奥のき庵〜きと見ゆうふあく　埜水

荷兮

芭蕉

野水

重五

芭蕉

杜國

重五

荷兮

野水

芭蕉

杜國

重五

荷兮

野水

芭蕉

杜國

重五

荷兮

七十

芭蕉

杜國

重五

荷兮

杜國

野水

荷兮

芭蕉

野水

重五

芭蕉

杜國

重五

荷兮

杖とひくるの僧う十歩

杜國

重五

野水

芭蕉

荷兮

正コ

[illegible]　重五
[illegible]　杜國
[illegible]　芭蕉
[illegible]　野水
[illegible]　杜國
[illegible]　荷分
[illegible]　野水
[illegible]　重五
[illegible]　荷分
[illegible]　芭蕉
[illegible]　重五
[illegible]　杜國
[illegible]　芭蕉
[illegible]　野水
[illegible]　杜國
[illegible]　荷分
[illegible]　野水
[illegible]　重五

雲の在長の国の笠めらしよ　荷分
[illegible]　芭蕉
[illegible]　重五
[illegible]　杜國
[illegible]　芭蕉
[illegible]　野水
[illegible]　杜國
[illegible]　荷分
[illegible]　野水
[illegible]　重二
[illegible]　荷分
[illegible]　芭蕉

なかは陳ろあし夫婦あそ
[illegible]れと　重五
[illegible]
[illegible]　荷分
[illegible]　杜國

鶴なくるまことの日うらうら
雲吟ぬ秋の日酒れきる　野水
義盛さ　ゑを市に振まる　芭蕉
六　宗義川に　測量千代まつ儀を　羽笠
いくたびの年なりけり　のろろ　荷兮
おのづと布袋奇わかれて　重五
う来いえをちを越る三平　野水
持られてこねる磐の離れる　杜國
火ちりぬ巨燈ちまさんとえん　羽笠
門ちるの雨ふ帝ゑうて寒る　芭蕉
血刀うこ月の時さう　重五
旁ちく幸御の陸ちつきく　荷兮
ふ西まつ初冬こ　杜國
ちれ雪桜の熊ちまてる　野水
傍のつ氏　歎ちと　芭蕉
二　白燕　酒ちぬ　羽笠
宣香うこく　鉦を鑄る　荷兮
八十年とこ川ちる童冊ちく　重五
　　野水

なくちもむる七夕のつま　杜國
西南ふ桂の花の川ちむと　羽笠
蘭のあちうト水ち川る　芭蕉
秋の影ふ賢なるかとてる　重五
泊瀬ち雲とあらふ日のれ　荷兮
ちり寒く桜ちるる四月ふ　杜國
つみちるる角蓼の交　野水
寅の月社鳥と泊瀬の鈴く　芭蕉
重かちり　き　羽笠
ウ　ちのこして雉ちぬ人の像　荷兮
泥ふちちのきちる芹の拓　重五
粥ちる行ちかふかちまり　野水
拓ちのトう　澤人ちる風　芭蕉
少社ちく　蘆中ちく　羽笠
社れぬ　ちを　杜國

田家眺望

雲ちの中や鶴の行くちひあて　荷兮

芭蕉

重五

杜国

羽笠

埜水

芭蕉

荷兮

杜国

重五

羽笠

野水

芭蕉

重五

杜国

羽笠

野水

芭蕉

荷兮

杜国

重五

羽笠

野水

芭蕉

荷兮

杜国

重五

羽笠

野水

芭蕉

荷兮

杜国

重五

羽笠

野水

芭蕉

荷兮

杜国

重五

羽笠

野水

芭蕉

荷兮

杜国

重五

羽笠

追加

うふんとうやと雖面しとうの雲　羽笠
稿ちあつるこの雲　荷兮
くさ所　雲あふ数とまんて　重五
稿ちとうあとやけを朝雲　杜国
根て　鶴の雲月を海　芭蕉
ひとうふ稿とまつ波阜山　埜水

表合ハ　八句又六句ノ中ニ神祇戀無常述懐懐旧名所地名ハ其巻ニ應シテ入レ一格ナリ

ひさこ

江南の琢碩雲ひとうふことを送りこれい
是ふ賢ともつ酒とあ〜ちむ器ふも
あ〜ひ或ちち稿ふ造ちく江湖をちと
化といくるふくくもを異ふう吾まと後
の惠ふうて用ふることをしらふ
ぬ〜〜其ふ紙ほとうふ蹴てあ雷う
て蛙ちふ流るる酔ちうふ日月陽秋
きちうふて雪のあけふの園の
郭ちをこのけふることれくなふ江
ふくくちちえきちて皆風雅の
藻思をいくちとちくちを見いられ乃
雪ちふあ〜てく乾坤のふちることを
出〜其のことをちく毎日は用ふちて
ことを

元禄三六月　越智越人

花見

木のもとに汁も膾も桜かな　翁
西日のどかによき天気なり　珎碩
旅人の虱かき行春暮て　曲水
はきも習はぬ太刀の鞘
月待て仮の内裏の司召
籾臼つくる杣がはやわざ
ウ
鞍置る三歳駒に秋の来て
名はさまざまに降替る雨
入込に諏訪の涌湯の夕ま暮
中にもせいの高き山伏
いふ事を唯一方へ落しけり
ほそき筋より恋つのりつゝ
物おもふ身にもの喰へとせつかれて
月見る顔の袖おもき露
秋風の舟をこはがる波の音
雁ゆくかたや白子若松
千部読花の盛の一身田

翁　碩　水　翁　碩　水　翁　碩　水　翁　碩　水　翁　碩

二
順礼死ぬる道のかげろふ
何よりも蝶の現ぞあはれなる
文書ほどの力さへなき
羅に日をいとはるゝ御かたち
熊野みたきと泣給ひけり
手束弓紀の関守が頑に
酒ではげたるあたま成らん
双六の目を覗までくれかゝり
仮の持仏にむかふ念仏
中々に土間に居れば蚤もなし
我名は里のなぶりものなり
憎れていらぬ躍の肝を煎
月夜〳〵に明わたる月
ウ
花薄あまりまねけばうら枯て
唯四方なる草庵の露
一貫の銭むつかしと返しけり
医者のくすりは飲ぬ分別
花咲けば芳野あたりを欠廻

水　翁　碩　水　翁　碩　水　翁　碩　水　翁　碩　水　翁

此うけくらゝきの山中　碩

翁土　琢碩土　曲水土

琢碩　翁　路通

いろくの名もむつかしや春の草
うられて蛙の聲いさゝめなる
蝙蝠のかくらふつらをさし出て
契のとけぬ浮鏡より
笠稀の宮をとりまはふかるる年暮る
親子ならびて月ならぬふ
秋の色宮ものぞせなれなり
こそくされくハ笑ふおかのけ
うつりあの羽織を肩にかけまきそ
小六うたひし市のくるは
鏡泊のちひさくなる川の端
念仏申ろくとりむそつのき
うらくし茶もう逢次年の暮る
居跡の里がれ太うおもされ

通　仝　碩　仝　通　仝　碩　仝　通　仝　碩　仝

殿守のとされき人の姫つまぞ
花いあらいお月を織夜
あかれのきれ桜の下を和日より
生網あつる浦のまつ舟
此村の魔をふ酔主のあまりなか
そろそんおけるものまりをいふ
うもくさる世を退屈ふとれふるを
まこと浪出ん酒のさえきされ
なつめやる秋の夕そくらひろき
薄皮まり白より山の桐中
うらんらつ里のまつ色の月の影
まからとり川子のされ裸むし
祝しやかの色烏くしとこゝとま
文珠の…粟特ヶ思癡
なれ加減いとい出来じむしれ味噌
物よ中世を太落る酒棚
のふ秋のとうらまりて笑出まそ
…ふよう彰と見ぬ別しく

荷　越

通　仝　碩　仝　兮　人　兮　人　兮　人　兮　人　兮　人　兮　仝

汗の雲をかくしてくれをとうおし　人
きりまを百たうもちあけてふる　仝
花さうの又百人の指をうつ　八ウ
ふ旅ちに　おもてさる　旅　仝

珍碩九翁一路通八荷分十
越人八

城下　野經

後炮のををふ星をる和月ふ　里東
砂の中麦の痩くちらく　泥土
面風ふますわの中貝拾せく　乙州
なまめる一川湖ひうみしろ　怒誰
基ひさうひ二人たしるる月風ふ　珍碩
秋の秋ゆの拍まのうのこゑ　筆
ウ　ゆ　花　ふ　四　音　わ　ま　れて　野經
目の中おもく又をうちふる　里東
くゆゆ又川東砂しをよ物をえ
新のをうきせたれつきかろう　泥土

馬ふる祇をうをやうく　乙州
一里こそうう　山の下荷　怒誰
又新をまて岩多ふをあるれを　泥土
ぬれ世をなこうあうとうれと　里東
をうゆふ笑越の杜めのをさうふ　野經
をを歩ふつれくく丁百の残　乙州
月新ふ春屋をうくをあうせ　珠碩
蒙志めの塗のこうをふ巌　怒誰
二　うををふ付て形ををれす　里東
宗氣遠の坊うを活出を　珠碩
のみふり居西のを荒の一さわき　乙州
ををそうちのおる湯食　野經
ぬくハ百姓まをを烏帽るふて　怒誰
酬所をとふ供所の蛤　泥土
ふをうを色ふ幽炭の活やん　珠碩
連を大をうれ発既なう　里東
ニ　くの大罪寺縄を吹遠し　野經
袁のくをうふ用叶へくき　乙州

糊剛さ夜ふちひさき世界て　泥土
いふくの身ふ菜食嗅出せ　怒誰
看經の帰ふ海きく嗅氣多　里東
四十八老こうこうこそ　珎碩
餐くせふ松の蹄を藤色しく　乙州
醉と細目くあくく吹くく　野經
杉村の花ふ蕎ふ面寒つき　怒誰
田の広陽り苗のうつさく　泥土

野經六　里東六　泥土六　乙州六
怒誰六　珎碩五　華一

雜

乾の甲京ちく時を時ふせ　乙州
准牛　薫ふ風のふく吉　珎碩
百姓の赤綿仕ふを　里東
小雪をろふるうくうの縄　探志
猶春く奥の名ふを拾の母　昌房
涛師蕎くきべる切焼　正秀

ウ
秋萩の情茅ふちくさ坊ふ荒　及肩
風呂の加城の志川ふくう　野經
蕾の立ちさ寒ふて時ふく　二嘯
立の雪ちるかまをこの雪　乙州
ちの花ふ鉢の芝稲屋ふ　珎碩
人のちふふ意をあふ　里来
古蓋の番ふ吹をふひ弟の後　探志
春ちく　新く　ぜいる時　昌房
淺の中茅さけて月ふり　正秀
ちく上京も不ゆる　及肩
芝ふ蓋ふ羽の町屋の今年来　野經
昔と茅ふ蕎のちく　二嘯
ニ
ちす蕎るいちんうと氣れて　乙洲
絆ふんなちふ寒の出ゆる　珎碩
法をうを絆の紙をを　里東
撰あまされて立ちあけふの　探志
時ちうふ茶摘の下とあ付　昌房
借馬と呼る就まちり口　正秀

萩の花

いきりたる蟋一ちちふ挑 及肩
ちくさこのる 銀 概の秋 野経
ちくさ〻沼蛙の紙ぢふ風ちて 二甫
きかの点ふもほのうぶ月 乙州
嗜和ふ嘯のくさそ焼くさ色 弥硯
蟋蟀うちい次了屋留る 里東
ウ
貝とぬくま兎のうとをうのて 探志
うへみちうこき宮上侍 昌房
ちこしふを弑移ちて塩ふけ 正秀
縄と集る寺乃上萩 及肩
花の次豆の日待ふ花ぞ花て 野経
さくらふ初ふ柳ふのを風 二甫

乙州四 弥硯仝 里東仝 探志仝
昌房仝 正秀仝 及肩仝 野経仝
二甫仝

田野

時の道や苟代時八角大師 正秀

吟色たうもむ蹄 嵐の新 弥硯
蟋ふこのわやくふ吟ちの宮 仝
かまくちのくき門口の文字 秀
月紛くく利休のれと鼻ふを 仝
ウ
家くく芋と豊ををうあり 硯
ウ
宮ふ皆つ挑くくと吟ふむ 秀
圧ふくくの赤後ふ河ある 硯
挑ふ式と百もてちる別紙ふ 秀
なちちくくり 佐の侍 硯
須ふいまこ和ふ月ふある蟲ふ 弥
孤の知るうかくりやる 硯
月ふある師光の宮移宿河 秀
宇紛ふ居ちる 信色進まし 硯
いくふこてちふ紙ちくもみられて 秀
おいあるふ。 縛ホ 鍛ホ 硯
行戸屋と茶屋家ふ変くり 秀
あひの山陣 ちちの八蓬 仝
三雲崎吟里ハ厩ニ糞ちき茨し 硯

そと呼くゝる禪門の祖父　秀
本堂はまこと叢祠の古　碩
羅漢の使ふかつて給んぬ　秀
宗と庸八の姿を繪ふ古く　碩
蒔ちてこそもむまこと應こそう　秀
蓮經の宮ふ紙燭を挑ふこと　碩
ロと果ぬいふさまの時宜　秀
あかこそふ小刺うこそある草袴　碩
秋入ある　把柄の態本　秀
来り給ふ言て日入る彩芝紅　碩
赤布ふひこそ川お宮こそう　秀
沢山ゝ元めくゝと吐られて　碩
呼ありけこそ　猶い帰ちて　秀
ふ紙ふ小人所の百あうう　碩
中ふの　枕ふの名ふ　ふ　秀
ちこそふ言給りこそる言あうく　碩
小時のる物ふ　ふ　秀

正秀十九　珠碩十七

猿みの

晋其角序

俳諧の集つくる事古今しらわるる事
はなはだ多くおいて我時なれば初俳
の事いとしてそれ自ら魂の入れた
ゆえうう松のうえうう世ゆ
く世うこそまわ世こそ人こそうの世て
不変は変こそ変こそ変こそ
ゆこそ長こそこそこそ
ゆう彼西ゆこそ人の貴こて人と作
こそこそ赤ふこそこそる面こそ
なん作るこゆこれる人ふふ成て作を
こそ五の表のわ沈こそるはる魂の法
は作ふこそのふ作ふわ作ふ作ふ
ふのこそこそアイウエオよこそこそ
いうれうん吟考こ出ふ人ゝ呂俳諧
う魂のこそこそ年こそこそ我為ゆ
師のこゆ伊賀紙ゝ作る山中ふう

猿蓑小蓑を笑ふてふ俳諧の祖と仰がるる彼の人の
ものまねの物語の如くに
ものと叫び声をあげ
ふ幽玄を幻術
ものわらひと云ひて此集をつくり
て猿蓑と名付け
序を書き
去来凡兆の魂を合せ
書

初しぐれ猿も小蓑をほしがるか　芭蕉
あさがほ咲て昼は物うき木陰かな　其角
時鳥聞やうつつの夢の中　千那
来人の問ふけぶくや野路の橋　僧丈草
後姿の松にかくれぬ月の雲　正秀
唐崎の松は花より霞む哉　史邦
舟人よめをかしがるしぐれ哉　尚白
伊賀の境を入る
ちりけぶりの中の一時雨　曽良
しらぬ国の夏の草かな　凡兆
ちるさくら海は霞まず日の出かな　大津乙州
たまぼこの道の光やかぎろふ　羽紅
我門入る稲穂踏ふ　膳所昌房
いなづまの中の時雨の山路かな　去来
ものいはぬ人の笠ぬぎ　伊賀百歳
一ふしも聞くあの人を雲にかぶる　野水

[illegible] 其角
[illegible] 仝
[illegible] 凡兆
[illegible] 嵐蘭
[illegible] 芭蕉
[illegible] 凡兆

[illegible] 伊賀 土芳
[illegible] 膳所 猪足
[illegible] 伊賀 越人
[illegible] 猿雖
[illegible] 凡兆

[illegible] 其角
[illegible] 伊賀 車来
[illegible] 尚白
[illegible] 珠碩

霜月朔旦

[illegible] 伊賀 良品
[illegible] 羽長崎内 不玉
[illegible] 尾張 亘葉
[illegible] 去来
[illegible] 伊賀 探丸
[illegible] 尚白
[illegible] 江戸 亀翁
[illegible] 凡兆
[illegible] 芭蕉
[illegible] 其角
[illegible] 凡兆
[illegible] 尾張 芥境
[illegible] 伊賀 半残

貧交

[illegible] 丈草
[illegible] 曽良
[illegible] 去来

[illegible] 史邦
[illegible] 丈草
[illegible] 千那
[illegible] 九兆
[illegible] 木節
[illegible] 丈草
[illegible] 路通
[illegible] 且藁
[illegible] 杉八
[illegible] 其角
[illegible] 長時 暮年
[illegible] 大津尼 智月
[illegible]

[illegible]

首出てそなつをとるそやは此舎 この 竹戸

歌仙 竹戸と舎

[illegible]あい我をのあるて紙舎 曽良

魚のうけ鶏のゆるゝ[illegible] 探丸

[illegible] 丈草

[illegible] 侯 [illegible]

[illegible] 史邦

[illegible] 野童

[illegible] 伊賀 蜂禾

[illegible] 九兆

[illegible] 膳所 畫母

[illegible] 其角

[illegible] 史邦

[illegible] 羽紅

[illegible] 探丸

[illegible] 九兆

[illegible] 仝

信濃路をとるとて

[illegible] 芭蕉

草庵の[illegible]

[illegible] 其角

[illegible] 尾張 羽笠

雑ゝそゝ一徒なるゝそ寒きのことひ　長崎　卯十
ひつのけゝりやそちんのそゝまきき　去来

青亜追悼

乳のゝのゝ世を渡しゝ雑乳小　尚白
ゝ雑い京也の癖也きの内　芭蕉
猪ゝきあゝれい新小洲あゝ　乙刃
一身い我小弟ゝせ猪ゝゝき　文草

住吉奉納

新邦二年や鼻息白ゝ面の内　其角
茅屋作小又のゝ新きゝ（伊賀）　順琢
家ゝやゝゝちいやゝきゝ猪（仝）　祐甫

乙刃ゝ新宅ゝ

ゝゝ家と買せゝ我い年出　芭蕉
弱法師我門やゝせ俳の礼　其角
歳のあやゝ弟祖父ゝきけゝ小松　長和
ゝゝ猪の一ゝゝいのゝ宿　去来
ゝゝ新ゝ虎のゝけゝ猪ゝ　仝
ゝゝやゝのゝゝれゝゝゝゝ　羽紅

やゝゝれて又やゝれゝゝ家の雪　其角
ゝ松ゝゝと人小ゝれつ年の雪　路通
ゝの雪破れ猪のゝゝゝゝ　杉瓜

夏

首明の面おゝゝほゝゝきゝて　其角
ゝゝゝゝ雪ゝ方や　時雨　木節
雪を猪ゝゝ小ゝ松ゝゝ　芭蕉
時雨ゝゝ小ゝゝゝのもな　尚白
ゝゝゝ虎ゝゝ門猪　九兵
ゝゝ雪ゝゝ月ゝ　智月
雪ゝゝゝゝゝゝ郭ゝ　史邦
蜀魂ゝゝ小ゝの角橋　羽紅
入れのゝゝゝの中や松ゝゝ　文草
猪ゝゝ猪ゝゝゝの猪ゝ　去来
小ゝゝゝ代皮袋や猪ゝゝ　遊女　奥刃
ゝゝ新を我塩ゝゝけ　時雨

猪の一見の時あゝ
猪の毛衣ゝゝめゝ

杉苔のとはるかなるそのれほとぎす　曾良
ゆくを我とゝまるかこゝろせよかんこどり　芭蕉

旅籠屋をたゝく夜ふかしてとゝ
ゆ風雨のふるもいとうるさし　曲水（勝呼）

四月八日詣慈母墓

ゆめのふうつゝうつゝるる花りぶ　其角
ゆくゝれぬ花を牡丹の姿哉（江戸）　全峯

別僧

ちるとゝのゝ山ゆくゝ越人
ゆくゝ山のあるゝ人ゆくゝけの色　珠碩

翁ふ供られてもまつゝふ

ゆくゝ

仏会ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ杜国（七人）
ゆくゝゝゝゝゝゝゝゝゝけしの花　荒蘭
井戸ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ杜若　半残

起ゝてゝゝゝゝゝゝゝゝ朝の間の

起ゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ　仙化

題去来之嵯峨落柿舎二句

ゝゝ植る畑も多し八月ゝ　凡兆
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　曾良

南都旅店

誰のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ千那
洗濯やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ柿の花（尾州）　薄芝

豊國ゝゝ

河のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ凡兆
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　去来

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　芭蕉

明石夜泊

蛸壺やゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　芭蕉
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　越人

八月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

石ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　其角
粽ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　芭蕉
張家の座ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　新叟
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　俳粽（江戸）　岩翁
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　尚白

六月十日大坂うちぬけの遠忌と
弔ひて
大坂やうぬよりは夏の六十年　伊賀　蟬吟
奥見る館ふく
夏汁や岳たゝ美の跡　芭蕉
這ふよかひをうゝれ燈の夏　仝
此塚をひとりとはるゝ行くらんと
てのみや
かくつゝ角ふりたて行たなるかな　九兆
五月雨ふるかつゝ捨てたなるかな　木節
行行麦の味なくて宇治の夏　史邦
るをの謂沢弁ありさつゝ
奥羽各五の那ふ入て中於宮方
い塩いつてのやとヨ駅宿を過ぎ
一里ばかりの方三蔵とらふ
やふかなとて〜ふりつゝくる
五月雨いとわりさくもるるかな
ゆくゝ行やいつて宵ゝめるゝ道　芭蕉

大和紀伊のさ〜ひたをれて行出て
浦浜の順礼をとゝめて
なれい料をつゝくる武ゝ
つくりもたてゝ〜ほやの月　去来
数刹を一夜ふ清くゝ五月雨　九兆
りの夏や蓼　傾くゝ五月雨　芭蕉
海ふ和やゝ苔ゝ世てよとゝ行ゝ月　羽紅
七千余の老鶯ゝまゝゝ
ゝゝゝくゝゝゝ
けるゝの老鶯ゝまゝゝ
ちちふゝ
ゝゝゝ
六ゝゝ力ゝゝ　月　雨　其角
百ゝを書ゝゝ　去来
ゝゝゝゝ　正秀
ゝゝ合ゝゝ　畠　游力
ゝをゝゝ

[illegible]の[illegible]して[illegible]やらん面壁　智月

[illegible]を[illegible]吟ずる山[illegible]　花紅

[illegible]川の[illegible]

[illegible]のくしめや奥の田植うた　芭蕉

[illegible]のうれしとてとりて

貫帰を面影ふして[illegible]の花　仝

法隆寺用帳南無佛の[illegible]を拝む

内待のそつもなきうつ[illegible]の花　千那

因の献の[illegible]ひり[illegible]　万子

膳所曲水く楼ふく

[illegible]因の[illegible]吹こつさ[illegible]て[illegible]　去来

[illegible]因の[illegible]二句

[illegible]の[illegible]法[illegible]　凡兆

[illegible]の[illegible]　芭蕉

三然師へ俗名[illegible]付

[illegible]谷　田上尼

[illegible]ふ[illegible]あ[illegible]れ　尚白

[illegible]の[illegible]　半残

病後

[illegible]の[illegible]　大阪　何処

[illegible]　乙刀

焼坂辞と[illegible]

[illegible]の[illegible]　嵐蘭

餞別

[illegible]　膳所　里東

[illegible]成人[illegible]

[illegible]

[illegible]　其角

[illegible]の[illegible]　文草

[illegible]の[illegible]　嵐雪

[illegible]　膳所　探志

[illegible]　芭蕉

[illegible]　伊賀　猩市

[illegible]の[illegible]　凡兆

[illegible]の[illegible]　千那

[illegible]の[illegible]　史下

素堂之蓮池邊

白さや蓮一枚の花あとま　嵐蘭
日焼田や咲くつくつくと埴　乙刀
日の暮さ　盥の底の蟹（カニ）　九兆
あくがれも曇りさあれば梅雨ぐも　仝
日の高やうつれて咲きし牛の舌　正秀
たく暮て蘭ふよれい梨の葉　木節
ちるんとの蕊ちくるてあつうし　野童
夕ゆふよりれてつくさ咲ぶ　羽紅
ちちちふ湯入ふうんいつさぶ　江戸　巴山
千ちうちまうりうきさちの國
よりちちうちくくちうりし猪ぶる
なちく人の少秋も今や土用　千　芭蕉
ちちちやあ食ちうぬちちを　嵐蘭
ちちちふ移れい江ちきタ〳〵ふ　宗次
ちちちちや粘茶門ふふ色　九兆
唇ちう暮ちく咲のおくちふ　千那
月待や咲の家のうち生粘　曽良

ちちちや既茶ひちる雲の暮　去来
ちちめて清ちちちく
きちちち今のい比敷しけちち物ち　大阪　之道

秋

秋風や茶ちちちふ茶ひちち　不知貧人
比夕東武ちきちちちちち素堂う
加門ちちめけ初ち茶や秋の風　杉風
芭蕉ちふ行ちちれちや秋の風　路通
人ふ咲く猪ちちと秋の風　珠碩

加賀の全昌寺ふ宿す

鄙夜秋風きくや宮の山　曽良
芦ちや浦の苫ぬおと秋の風（ニワ）　山川
行く雁や賛今宮の秋の風　九兆
ちちち雁や猪の外ちの新あく　去来
大比叡やちちふ秋ち茶の雲ち近　野童
ふちちちて跡い猪ちや相の菊　九兆
文月や六日ちちの朝ふ仏ち　芭蕉

合歓の木の葉ごしもいとへ星の影　芭蕉

七夕や[illegible]　伊賀小年　杜若

[illegible]撲丸　去来

[illegible]　伊賀人　風麦

[illegible]蔓の[illegible]　膳所　及肩

[illegible]似たる木槿かな　嵐蘭

[illegible]木槿かな　杉風

[illegible]　千那

[illegible]声や秋微雨　史邦

そよくや萩の内より初あらし　且藁

秋風や[illegible]　三川　子尹

迷ひ子の親のこゝろやすゝき原　羽紅

八瀬[illegible]

文[illegible]

まねきまねき枴の先の薄かな　凡兆

[illegible]

[illegible]山[illegible]

[illegible]　去来

草刈よそれがおもひか萩の露　平田　李由

元禄二年翁に供せられて[illegible]

[illegible]

加賀の国[illegible]

まで先達侍るとて

いづくにかたふれふすとも萩の原　曾良

桐の木に鶉鳴なる塀の内　芭蕉

百舌鳥なくや入日さし込女松原　凡兆

初[illegible]に行燈とるなまくらもと　七人　落梧

堅田にて

病雁の夜寒に落て旅ね哉　芭蕉

海士の屋は小海老にまじるいとゞ哉　同

加賀の小松と云処多田の神社の宝物として実盛が菊から草のかぶと同じく錦のきれ有遠き事ながらまのあたり憐におぼえて

むざんやな甲の下のきりぎりす　芭蕉

菜畑や二葉の中の虫の声　尚白

たゝかうや雄ふ鳥て呼秋い月夜　風麦

いせふまうてゝ

葉月や夫婦ふ後ろ人ふあん　千子

ふり月ふ蓋のあくまうゝ之道

雲ふ半と月ふ変ふりぬる月秋　半残

月夫せん伏見の城の梅郭　去来

翁と芋食ふ者しく

初ゝろ行ふをゆえよ者月秋　士芳

加茂ふ行　かのゝ人のたゝかふ涙のこゝろ

秋ふるゝ月ふ行ふ橋の上　史邦

月新や柏ふ月ふ

友達の古傳ふ

とゝまうゝ

新ふ行ふしゝふさ天ふ送る胡月秋　卓袋

ゝゝ我ふ月の新　乙州

糸風笠吉ふの月ゝ、信仲間　文草

吹風のおゝやゝふ月一川　凡兆

信ゝふてゝふふ月の名　尚白

内のゝゝ者と月ふる癸の邸　曽良

元禄二年つるゝ社ふ月ふを

ゝゝ気比の明神ふ参ふ人の

古例をきく

月清ゝ　社ふのゝ月ふる砂の上　芭蕉

仲秋の望猶ゝを送茶して、

ゝゝる秋の月ゝゝゝゝ

明月や愛ふ寺の茶社ふゝ　去来

月ゝを人の行ふ　勝所　昌房

信心のいゝゝの心の　羽紅

初潮や明ふの信の花御　尚白

一戸や行ゝゝゝゝ　凡兆

稗の穂のゝる近ゝゝゝ　去来

深井ふゝゝゝ　越人

月ふ行ふゝゝ　正秀

ふふゝゝてきゝふる鋪ふ　嵐蘭

一鳥不鳴山更幽

物ふ言ふゝゝふふ　凡兆

ゝゝゝ物ふふゝ里ふ朱　曽良

旅枕秋のつゝ会秋の下　江戸　千里

鳴いやゆ淋柿赤の蕎麦畑　珎碩

よりもとりるる手や秋の天　凡兆

雞つる比と者しく〳〵雞つ　半残

田人間のうすあるくゝ菜の葛　尚白

蕎とかるる鳴まるくゝ鳴あるくゝ　其角

言ちゝ小鶉の呼りや手ちゝれ　珎碩

うれ沈のおりいるくゝ稲の秋　土芳

稲うつく冊ふ冊むくゝふぬ　凡兆

自題落柿舍

柿めしや柿ちゝちゝくゝし山　去来

ちゝ〳〵ゆゝくゝ柿の下　かあ小松　蘆生

吸ちゝ牛切山のうすの蕎　凡兆

祇田楽

ちれいちゝ仏山の柏のあれ　蚊足

祇田楽の祝うゝ　蚊足

柿ちゝくあまれくゝ

ちちちちちれたまくゝ小　嵐雪

り秋のちゝ日鶉ちれ小　文草

ちゝる秋の夕や風れくゝ　凡兆

世の中い鶉鶉の尾のひくゝ　仝

蕎奥の蜀ちちを秋の雷　荷兮

春

柿〳〵〳〵人の蛙の恢めあて　露沾

上膳の山庭ふまゝくゝ

候〳〵まくゝ

柿う雪や山後猟入犬のまる　去来

柿くゝ〳〵ふ入里い牛の角　加賀　句空

庭　真

柿ゝ雪や砂利しゝ流を茶の奥　土芳

ちゝ蛙や背ちゝ分ゝ柿の花　半残

柿　雪や風りくゝひの咲しき　膳所　蟬麻呂

くゝの柿や柿つ柿と鶉のさう　其角

子良館の後ふ柿者くゝて

ちちふ石ふの柿くゝ柿の花　芭蕉

痩藪や作りこかしの梅の花　千那

灰捨て白梅うるむ垣ねかな　凡兆

日当りの梅咲ころや屑牛房　膳所 支幽

暗香浮動月黄昏

入相の梅になり込ひゞきかな　風麦

武江におもむく旅亭の残夜

寐ぐるしき窓の細目や闇の梅　乙州

辛未のとし弥生のはじめつかたよし
野山に日くれて梅の匂ひしきりなりければ
旧友嵐窓が見ぬかたの花や匂ひを
案内者といふ句を日ごろはふかくもおもはざりし
此ゆふべにおもひあたりそれも折にふれて感動
身にしみてかゝり涙おほく流れければ
その夜の夢に正しくまみえて悦べる
かくても亡人はまことに風雅を忘れざるや

夢さめて又一匂ひ宵の梅　嵐蘭

百八のかねて迷ひや闇の梅　其角

ひとり寐も能宿とらん初子日　去来

野畠や鴈追のけて摘若菜　史邦

古川にこびて目を張若菜哉　嵐蘭

[illegible]　如行

憶翁之客中

裾折て菜をつみしらん草枕　嵐雪

つみすてゝ蹈付がたき若菜哉　路通

七種や跡にうかるゝ朝がらす　其角

我事と鯲のにげし根芹哉　文草

うすらひやわづかに咲る芹の花　其角

[illegible]　仝

[illegible]　去来

[illegible]　伊賀 一桐

[illegible]　江戸 渓石

[illegible]　其角

うぐひすや下駄の歯につく小田の土　凡兆

[illegible]　伊賀 奥日

[illegible]　探丸

[illegible]　江戸 卜宅

姫こ〜ふるさとの柳　尓　盛水

ようさ川柳ながれの柳　尓　尚白

まろ枝のもろくれや紀の伊国　一啖

まりけや　恰いうて　場のもみ　木白

侍半の　四月　ものやうて　月　揚水

田家　小在

まろ〜ふ門ろ　猫の夢　芭蕉

ろらまま〜おのひ切　猫の恋　越人

うさ方ふかまのて　猫の　去来

露沾公　餘寒の當座

まろ風ぬさ　ぬ羽織　尓　亀翁

四の梅のもろ〜ろ　二月　尓　尚白

出ろもりや　堅ふあまれるさの　亀翁

出琴や　初ろ　ふあ　嵐雪

背ものかく　ふ　尓　凡兆

白象や　法ないと　紀のうひ　其角

人のまふろれて　尾張　杉峯

まろふさ　桜　元志

陽ものや取つとうある雪のと　荷兮

うけろ〜や　ものれ　百歳

かけろ〜や　ほろ〜　ものの　土芳

いろ〜ふのいとあろ〜ふ　屋本　伊賀　永固

野ろふ　ふ　尓　凡兆

うけろ〜や　笠　紙の糸の　芭蕉

いろ〜ふ　鳥　川の　配力

物背のもろふ　ものの　嵐雪

彼岸まく　ものの　路通

ものもや　背のまろ　野水

義ふ　ふ　義の　凡兆

ろろ〜ふ　紀の　日　沢雉

まろやや　屋根の　山ものふ　嵐虎

まろふ　ふ

まろやや　ふろ　ものの門　猿雖

ものやろ　ものろ　紀　芭蕉

まろやや　田義の　史邦

まろろやや　汗　羽紅

[illegible]の雨代[illegible]の畦てこひ　史邦
[illegible]の竹や虫の糞　昌房
[illegible]の[illegible]　去来
[illegible]風ふるもれ　伊賀　荻子
[illegible]の[illegible]　羽紅
[illegible]の[illegible]　三河　烏巣
里人の[illegible]る田塚の[illegible]　荒推
[illegible]の[illegible]　半残
[illegible]　加賀山中　桃妖
つのの[illegible]る[illegible]　濠　伊賀　園凡
[illegible]の[illegible]　弥碩
[illegible]の[illegible]　士芳
雲の[illegible]　芭蕉

越より花[illegible]
[illegible]　芭蕉
[illegible]の[illegible]の樟の枯枝ふりく入ぬ　凡兆
[illegible]　伊賀　石口
[illegible]　杉凡

[illegible]の[illegible]　芭蕉
芭蕉庵の[illegible]
[illegible]小[illegible]　曲水
[illegible]　江戸　山店

畫讃

[illegible]の[illegible]の[illegible]　芭蕉
[illegible]の[illegible]　車来
[illegible]
[illegible]　羽紅
[illegible]　津国山本　坂上氏
[illegible]の[illegible]　芭蕉
[illegible]　伊賀　利雪

東叡山ふあて
[illegible]　其角
[illegible]　尚白
[illegible]　凡兆
[illegible]　丈草

有明のそらにかほるうめ　史邦

花すすきふるきてらの花の香　千那

葛城のふりたるさとの

はるさめにあけぬ沖の新　芭蕉

いう丸園花はの花はいろゝ南北の

八重桜の料に付られるとの仰

ゆるさる

一里ハうれ花ちるのゝ孫のや　仝

古文の墓東武谷中にあり宗長歌

ぶれ廿年の後は地にてうめ墓の

おふ桜はなを仰るかのゝ桜の

うゝうゝてうの桜を仰ぐ桜の

墓は桜咲うれ給ふた

まうりや花咲ふ塚の仕業ゝ　園風

あるふたゝしくと花ふ　去来

なる仏の腰ゝ花の郭ゝ　九兆

旅人のやゝとゝ

花ちるあれて花　叡　半残

暗さうれ宗中　伊賀　長眉

花も奥さゝるよりの仕業ゝ

大雲やゝ　曽良

道灌山ふの原

道灌や花ハその代も嵐ゝ　嵐蘭

源氏の絵とて

探千にあるゝ花のゝとゝ　羽紅

庚午の歳あと燈ゝ

焼ふゝ山れとも花ゝとも　加賀　北枝

されもるや仏堂の梅おゝ　九兆

法堂の花ハ法ゝ

大和の術のゝ

宗門ゝ寄のゝ法や薮の花　芭蕉

ゝ丸や　弼弱ゝ　探丸

やまゝ　法ゝ　智月

花角して花ゝ法ゝ　山川

雪の寄きゝめてゝ山　伊賀　式之

[illegible] 乙刀

[illegible] 初陳の堂前 曽良

望湖水惜春

[illegible] 芭蕉

[illegible] 刷ぬ[illegible] 去來

一[illegible] 風の木[illegible] 芭蕉

股川の朝[illegible] 九兆

[illegible] 史邦

[illegible] 蕉

[illegible] 來

[illegible] 邦

[illegible] 兆

[illegible] 蕉

[illegible] 來

[illegible] 邦

[illegible] 兆

[illegible] 蕉

[illegible] 來

[illegible] 邦

[illegible] 三里あまりの[illegible] 來

[illegible] 盧同[illegible] 男[illegible] 邦

[illegible] 兆

[illegible] 蕉

[illegible] 來

[illegible] 兆

[illegible] 邦

[illegible] 來

[illegible] 蕉

[illegible] 邦

[illegible] 兆

[illegible] 蕉

[illegible] 來

[illegible] 邦

[illegible] 兆

[illegible] 蕉

[illegible] 來

[illegible] 邦

[illegible] 兆

[illegible] 蕉

ウ 紫の戸や雪を爰めをまれて寒を忘
めのこそろ〳〵人風の久うを生　邦
押合て寒ていふてうつ俗まつ　兆
たくらの毛のもとを赤き　蕉
一葉　歓つくる宮のもれ　来
枇杷の古葉ふ所者かをつ　兆
去来九　芭蕉九　元兆九　史邦九　邦

市中は物の白ひや交の月　元兆
けつ〳〵と門くの夢　芭蕉
二番をうの果をれ稲ふをて　去来
所うちうくくうの一枚　兆
此笠は雨も見初をを月ひをを　蕉
たくをひや〳〵ふ雪を振稲　来
ウ 名村〳〵雑ををうをれ　兆
蘇の芽をうふ船ゆりを　蕉
道ふのおをいを名つむ時　来
能光の七尾のあを小塩うき　兆

魚の骨をうるとの老ををく　蕉
待人入〳〵小竹門の猛　来
ををを屋風と網を世を　兆
陽炎は行の美をを引き　蕉
苗香の美をゆを美を鳥　来
俤ゆををもく寺ふうるゥ　兆
をを川の猿を世を絶る秋の月　蕉
年ふ一汁の塩ををうし　来
二 五六年七本つけをる　兆
を袋ふをよを氏を者の道　蕉
遥をを不をゆるの刀持　来
ををを前入ふをを　兆
戸陰をを月ひの美を会　蕉
てくををまりいを者を　来
ををくをを物を月を　兆
巻をふをを記〳〵を川秋　蕉
をのををふをを牛を　来
ゆをみを美のあをを堪　兆

蕉　来　兆　蕉　来　兆　蕉　来

九兆　芭蕉　去来

灰汁桶の雫やみけり　九兆
あつあつかさりて宵寒し　芭蕉
我を愛す秋の夕　野水
なくなくて蛙一ツのさゝやき　去来
あ代浮くさを抱きあるて
芋の葉ふたひ〳〵雲降る　蕉
雫ひて脇ふ降る芋の葉　兆
摩邪ことる形ふをのうれる　来
夕ゆふこつまはと吟つた風芋　水
地の口をとゝゝて宇宙よさ　蕉
かのおゆひくふい宮て体ふ　兆
迫せそしゝと変よりのふゝ　来
金屏とくふふゝ分の四ゝさ　蕉
あ月風名ゝさのよひくの月　兆
町角の秋を月明やゝさ　来
行とゝゝ月ひ雲はゝゝ　水
芋ゝ芋る分い面金の宮芋ゝ　蕉
ふ芋るの孤芋ふ芋ゝとられて　兆
二つるやゝ山信つゝふ平ゝ　水
紫ゝて孔のもをかゝる　来
ふゝ月のあれふ芋ゝる小風　兆
脇の池をゝゝ月ゝ　蕉
芋ゝ芋ゝ女の彩芋ゝ孔て　来
行ふゝひ　艸　根のゝ　水
夕月あ芋の芋ゝの蘭芋る　蕉
人ゝ芋ゝれしゝあゝゝふのゝ　兆

うてつてふ自慢いたせて拾ひ
みいたす事の新と云ひて
拾より田のまやさてはやきあき　水
加義のやうはいよいよ社あり　來
扨貴の風こうこうとなりて　兆
百のやうの安世迅速　蕉
豆ねふるまるの名のふかきよ　水
きまりくあふ蘭のたくらん　來
るつさくく後つきつふいろりう　兆
まふ三月　曙　の　特　ら　來
九兆九芭蕉九野水九去來九　水

餞乙州東武行

芭蕉

拾　芭蕉まりこの宿のうらけ
かさあくらくさ　乃　嗤　乙　劔
ちを年の　少四ふ土　結　珠　碩
きくく　後うてしあふうり　素　男
斤隅りちを墨くく書の母　劔

二階のあいくをてくるあさ　蕉
扨ちゆるうくの紙くえちせ　男
綿の系延の力ちきこのせ　碩
わつくんのくふうる後ふ　蕉
四義頭うとなきあはふ　劔
印の刑の墓ふ並ふ中あ　碩
きくくるれの志四うりう　男
義の礼きくくの礼ふきれて　劔
者くくふる百舌きの一寿　智月
情ふをあくくもる秋の母　凡兆
汐きくまくぬかのあつら　劔
港の柄ふこきうくる花の雪　去來
成まきちくかくあの跡　兆
名きの月ふ仕事てうくる空　机　正秀
衣如れうふ紙のをうきり　來
汗のうひ湯のきりくの紐の糸　半残
うれせりくき雑の下　土芳
大猪りふひうれぬ高とて　残

分ハ紙の取所なき
小刀の拾文なる細工ちて　芳残
棚うつ火ともて大年の夜　園風
うつもといおのふ浦の浦の浦　猿雖残
むすもすかせ苔なるかとなる　風
此苔をこのれめをとる破扇　雖
苔ぬねきせうちうちうる　芳
ウ嘆きの隅ちちうを縁つつひ　風
深くりうふほうくんを教
形れを深とおるふる今俳意　嵐蘭
うををとうる牛の別乃紙　史邦
苔ふまうくまうくのうをて定ら反　野水
雖の徒を深るとる　羽紅

芭蕉三　乙刃九　土芳三　珠碩三
園風三　素男三　猿雖二　智月一
嵐蘭一　九兆二　史邦一　去来二
野水一　正秀一　羽紅一　半残四

幻住庵記

石山の奥岩間のうつろふ山有國分山と云
うちうつ国分寺の名と仏ちうつ　蕨畑き
原と浪うて墨縄ふ苔うる事三曲二百歩ハて
八幡宮くくせうう人神殿ハ行宿のそ係くれ
唯一の氣ふい甚忘ある事と両部光を和らけ
利益の塵と因くうう志とまうも又貴し日比い
人の詣さううをいをく祈きひ物ちうる傍ふ
経拾く草の戸をよりき拾遺抄をかくる伝
ゆう発義て狐狸ふうとを浪くう幻住庵を
くの傍行ひい勇士菅沼氏曲水子の伯父うん
行しと今ハ八年計ひくふ成て正う幻住
老人の名とのくなりて又市中とさる事
十年計うて六十年やちうさるい苔衣のみを
失ハ蝸牛の氣を殼て奥羽象潟の暑き日
よ面をこうくるすれこあるくうき北海の
苔磯ふきひすを殼うて今嚴湖のの海ふ漂
情の浮巣の流くうまうくき芦の一年乃宿

あれたりし軒端荻あしくさめ垣は結添ふて
卯月の初いとかりそめふ入し山の中やかて出しと
さへおもひそみぬさすかふ春の名残も遠からぬ
つゝし咲残り山藤松ふ懸て時鳥しはく過る程
宿かし鳥の便さへありを木つゝきのつゝくとも
いとはしなとそゝろふ興して魂呉楚東南ふ
はしり身ハ瀟湘洞庭ふ立山ハ未申ふそ
はたち人家よきほとふ隔り南薫峯より
おろし北風海を浸して涼し日枝の山比良
の高根より辛崎の松ハ霞こめて城有橋
有釣たるゝ舟あり笠とりにかよふ木樵の聲麓の
小田ふ早苗とる哥蛍飛かふ夕闇の空ふ水鶏
の扣音美景物として足すといふ事なし中ふも
三上山ハ士峯の俤ふかよひて武蔵野の古き
栖もおもひ出られ田上山ふ古人をかそふさゝほ
か嶽千丈か峯袴腰といふ山有黒津の里ハ
いとくろう茂りて網代もるにそとよみけん万葉集
の姿なりけり 眺望くまなからんと後の峯ふ

這のほり松の棚作藁の円座を敷て猿の腰
掛と名付彼海棠ふ巣をいとなひ主簿峯ふ
庵を結へる王翁徐佺か徒ふハあらす唯睡癖
山民と成て孱顔ふ足をなけ出し空山
ふ虱を捫て座すたまたま心まめなる
時ハ谷の清水を汲て自ら炊くとくとくの
雫を侘て一炉の備へいとかろしはた昔
住けん人の殊ふ心高く住なし侍りて
たくみ置る物すきもなし持仏一間を
隔て夜の物おさむへき所なといさゝかしつらへ
つくりさるを筑紫高良山の僧正ハ加
茂の甲斐何かしか厳子ふて此たひ洛ふ
のほりいまそかりけるをある人をして額を
乞いとやすやすと筆を染て幻住庵の三
字を送らる頓て草庵の記念となしぬ
すへて山居といひ旅寝と云さる器たくは
ふへくもなし木曽の檜笠越の菅蓑斗
枕の上の柱に懸たり昼ハ稀くとふらふ

題芭蕉翁國分山
幻住菴記之後

何世無隱士以心隱為賢也何處無山川
風景因人美也間讀芭蕉翁幻住菴記乃
識其賢且知山川得其人而益美矣可謂
人与山川共相得焉迺作鄙章一篇歌之
曰

琵湖南兮國分嶺
古松欝兮緑陰清
茅屋竹緑縈數間
内有佳人獨養生
滿口錦繡輝山川
風景依稀入俳城
此地自古冨勝覧
今日因君尚益榮

元禄庚午仲秋日　震軒具草

凡右日記

時秀脊中元てゆる藁う那　曲水

[illegible] 野水
[illegible] 去来
[illegible] 凡兆
[illegible] 千那
[illegible] 珎碩

贈紙帳

[illegible] 野徑
[illegible] 里東
[illegible] 乙刄
[illegible] 怒誰（脇所）
[illegible] 探志
[illegible] 元志
[illegible] 泥上（日）
[illegible] 史邦
[illegible] 正秀
[illegible] 柳陰（七人）
[illegible] 如行

推の[illegible]
[illegible] 朴水（脇所）
[illegible] 市隱（美濃岐阜井）

文山云[illegible]

[illegible] 半残

麦の粉と[illegible]

[illegible] 之道

書音

[illegible] 魯町（長寺）
[illegible] 及肩

登猿腰掛

[illegible] 尚白

贈薯

[illegible] 北枝
[illegible] 木節

包紙ま書

[illegible] 扇（膳所）
[illegible] 智月
[illegible] 羽紅

桶の掃やきれてぬきりくて　昌房
里いまタめ〳〵そのそさぶ　何処
時やけ〳〵ぬかるのまもる　越人
越人と同〳〵　訪今〳〵
蓮の実の休よ亦入多邦　等哉
明年孫生長旧庵
まもるやけ〳〵も果ぬのふる　嵐蘭
同　夏
さ〳〵さやぬ雲そ人ぬ　曾良

跋

猿蓑者芭蕉翁滑稽之首韻也非比彼山寺倫衣朝市頂冠笑只任心感物写興而已矣洛下逸人允兆去来随翁遊学棋舘竹窓躐等凌節斯有歳屠撰此集玩弄無已自謂絶超狐腋白裘者也於是四方唫友憧々往来或千里寄書々中皆有佳句日蘊月隆各程文章然有昆仲騰士不集録者索居竄栖為難通信且有旄倪婦人不琢磨者鹿言細語為喜同志雖無至其域何棄其人乎哉果分四序作六巻故不遑廣搜他家文林也維貶元禄四稔辛未仲夏余掛錫於洛陽旅亭偶會兆来吟席見需記此支題書尾卒援毫不揣拙蹇幾一蓑高張有補于詞海澳人云

風狂野衲　文艸漢書
正竹書之

續猿蓑

八九百年を経て百傳る柳の糸　芭蕉

まちのうらもとの畠わるさを　沾圃

神前をるる手とりの馬蕓　馬蕓

月いとをつく晩のふるまひ　里圃

きのふ〻月和とまる月の光　沾

物背うれて机をそらす冬　蕉

淋しい風ふれそめ　里

孫う伝とる祖父の信濃　蕓

祖さ〻ふくてほうる形力　蕉

蝶をきまつそはや雁の腰　沾

約束のかもつきけ賣ふ木て　蕓

十里をうつの金ふく出うと　里

雁の来ふ物好て初りるま　沾

なるまう門の書つけ　蕉

いろ〻う淡い波ふれき　里

月とすみをそ京の尽つ至　蕓

蕉　[illegible]

沾　[illegible]

莧　[illegible]

里　[illegible]

蕉　[illegible]

里　[illegible]

莧　[illegible]

沾　[illegible]

蕉　[illegible]

里　[illegible]

莧　[illegible]

蕉　[illegible]

沾　[illegible]

莧　[illegible]

里　[illegible]

沾　[illegible]

馬莧

里　[illegible]

沾　[illegible]

莧　[illegible]

里　[illegible]

沾　[illegible]

莧　[illegible]

里　[illegible]

沾　[illegible]

莧　[illegible]

里　[illegible]

沾　[illegible]

恋のやさしき帷子けのからひ猫　里
安て家頼よき秋若のは　莧
花のうけ身を大経すの霧に入り　沾
仏の内の土のうらくつけろふ　里

いさゝ川蛍り居る嵐かれ　里圃
そのまさきの香ならぬ花　沾圃
大根のそだゝぬ土にふすくれて　芭蕉
上下ともに朝茶のむ秋　馬莧
町切に月見の頭の集め銭　沾
荷ちゝしと乗る次　里
ウ
祖先院の弥陀の縁起ほとく　莧
かゝりの湯を桃ひらやく　沾
姐の謡りなをうけるのし　里
目利で家をよい茶しまう　莧
状箱を駿河の飛脚さしけきて　沾
まことかまてなしぬ日の影　里

いそがる伊勢の宇治のくし鰹　里
蕎はあしくれとなる一倍　莧
俵木をしめぐて宗匠花盛　沾
長静なる芋乃深爐　里
二
うらひらの物なれど掃除し　莧
大名の合点して物ふてある　沾
見くらべて鳥のちのわれと中直て　里
二階座敷の花のゆきさむく　莧
汁のまよいする茶屋の御重く　沾
あらむ麦をとまけ折くよる　里
日くれ寺の指園を出去し　莧
筏のおもての立いれしき　沾
浅ゆくまつくるゆる小商ひ　里
里下しても海よい料理くふ　莧
秋寒く秋雨来る峯の月　沾
新わらの出初る畑の家　里
ウ
此蠢ハ寶の舟のおく〳〵　莧
事付ても出ぬの花内　沾

草の葉にくるゝのみの尾ちらかす　莧
伊弥きたる綿とりの雨　沾
うき旅は鶉とつれてまはりける　里
又所にこゝろ帰り行るそら　莧
紫竹の蓆の中より這つゝ出て　沾
柳の傍へ門をさしけり　里
二
百姓もありて世の中を守るさま　莧
こまちやと猿にあつらへ斤菜　沾
浅草の浪銭つゝしおろし置　里
冬のありさまとくてよりしも世なれ　莧
砂を這ふ蘚の中の絡絲（ギス）の声　沾
おもふ人にいひ出もせで　里
火燵の火いけて猿子をまつらせ　莧
一ふすましの　雁の羽　沾
折しも実月の紀るあさね　里
源に加減のちかふおそさ　莧
月影のそゝしけれとも心もとなき　沾
畑かれの手にふむ露に御祓哉　里

ウ
手伝に娘と小川は娘のさき　莧
気色の花とてちらくおもい　沾
花のあと蹴鞠のあとも物しるし　里
寺のひけしる山深の夫　莧
そよりいさく蔵にうきし池の鶴　沾
一言ふれてあるゝかれ風　里

猿蓑にもれたる霜の松露哉　沾圃
日は寒けれど静なる岡　芭蕉
水かるゝ池の中より道ありて　支考
篠竹まじる柴をいたゞく　惟然
鶏があがるとやがて暮の月　蕉
通りのなさに見世たつる秋　考
ウ
盃を貰ひ一荷でもちかへる鯖の頭　然
豆腐の廡となれしちぎり　蕉
算が来て門はせはしき師走哉　考
中国よりの状の吉左右　然

朝日のひかりにうつろひ
一さとの織り名ども
きさんしふる業の流の振舞
山くに門あるあり
初あり　湖の人のうけまり
ゆ後　之る　後の小いさし
えてゐる江戸井ハ高の後ろ
ゆ拾ひしかふいと
二　こちらの又あり
ゆくあり　陸とたるのうらく
後の明儀ハ今後屋ゆら
雲晴のさとしもせられぬ
大世ふりの二月ある雪の後
雲さるく　中の流　通
ゆ秘の雲　掛を望出あれ
奥の世並を　迫年の　北
酒ゆを者のやはをいそて
赤鶏改と　を　西めん

蕉
考
然
蕉
考
蕉
考
然
蕉
考
然
蕉
考
然
蕉
考
然

宮ゆ　蛍の　川元
康　汗　の　ゆ　今　の
ゆ　を　ゆ　の　の
大工つうひの異ふ世ゆ
系絵と　ふいよ　ゆ
ゆ多て市の中とおの
此あゆ汗ゆ花乃けれて
蛍のあゆの　のまめけ

蕉
考
然
蕉
考
然
蕉
考
然
蕉
考

野盤子
支考

今宵賦

今宵ゆ六月十六日のゆらあふかゆ月ハ
東方の孔山ふのけく衣裳ふ湖ゆの秋
と明くむされハ今宵のあひひゆめり
る甲の序とゆとゆく酌てみ
ゆらて人ゆくふ海ゆて扶とひ
山をおの人ゆかゆなる人さく
さらふ人を奥ゆめんふあゆ行をあ

なにかしかしのくゝさをかゝれけれ唯萍のれうきさうひとの実をさて見しらるゝもとつきて侍りける何更ハ深川の草庵に年のよ秋ともさくめくとしいふれつき限月のあをひをもとりて伊賀の山中に父母の古墳をとふらひ洛の嵯峨山に旅寝しつゝ加茂祇園の涼しみをもてあそびくてや此ころ秋をまつ旅人とかへりにふさみれう湖水の納涼をとこそ旅くくてまこと三日四日の暑さを嫌くきさりて翁の鶴とならむ今宵とて菅沼氏をあるじとして儕あつまり侍りて儕に似るかのあるじこのほとりのありさまハ勢田川の岸に小松をとりそへたるし涼しく侍ゆきこえしそうら川の涼みをとしてくるあるなし去年ありし人くの多くをもさてわすれさりし似くれおもひいくよろこゝる老人の哀にくゝひておもひえす鶴鳴く方のさふさりけまして魂なる此を何まもろきとのみまされしを支考とにいせの方に行ところ求て時なのれハむろへむなし此をふるの志うしなひ湖の水辺のせめてさらくふおもりれていつか此あるひふおもれらん去年の今宵さて翁のごとく明年ハいまさきゝられ今宵の無常を作てあらましかゝらんそぞろに膝をくみあるものあるべし四時の秋よみとのませんとたちふれあひぬ

夏の夜や崩て明し冷し物　芭蕉
露ははらりと蓮の縁先　曲翠
鶯はいつその程に音をいれて　臥高
古き革籠に反故おし込　惟然
月影の雪もちらつく夜の色　支考
ウ
しまふて銭を分る駕籠かき　芭蕉
猪と猫の中へ追やりし　曲翠

高　山ゝ[illegible]ふ名と書て出て
然　仮借なる面掩ふ[illegible]
考　書て立夫と志[illegible]る也　陣
蕉　おのゝ[illegible]ふ[illegible]
翠　持仏のうゝふ名日さく　也
考　年時ふ茅と蔚之しゝ[illegible]孫
然　秋風ゝ[illegible]る門の居風名
高　る引て[illegible]初る月の新
蕉　尾[illegible]てつゝ[illegible]
翠　[illegible]のゝ[illegible]
高　[illegible]
然　[illegible]
考　[illegible]
蕉　[illegible]
翠　[illegible]
高　[illegible]
蕉　[illegible]
考

際の日和ゝ[illegible]の氣[illegible]
然　[illegible]
翠　[illegible]
高　[illegible]
蕉　[illegible]
考　[illegible]
然　[illegible]
翠　[illegible]
高　[illegible]
然　[illegible]
考　[illegible]
高

春ゝ部　花梅

露沾　[illegible]
其角　[illegible]
芭蕉　[illegible]
洞木　[illegible]
丈草　[illegible]

花菊て作りたる杯のやうなるを　洒堂
蓋をあるに酒をふあたひて文をかけるを
也　雅のまされるふるひをしらるるを
酒を愛し琴の音せよ宮の花　惟然
聴みて涙をさそふ夕さくら　支考
人の来ぬかく寂しくも梅　沾徳
くもりやすい中の花のわ面　猿雖
七つより弟子ふ初てる世中ふ　陽和
足る所ものこころやさしの梅　乙州
咲花とむしろ敷るる春ふ　木節
ろろ春ふ山ふ足をしたる梅　沾荷
二の橋やさくらむ綱の鳥　子珊
善光の出方ふひしく梅ふ　卓袋

田家

蒟蒻の名物とさん山さくら　李里
咲うるる花や仮菜ふ十石　桃首
山門ふ花ものくしく八ふ　一桐
なるれ水の根もあ　如雪
花ふとさせてれ　ふるむ人ハ維　其角
たれやふ春ふ春ふ　少年　鷺
ものを春ふ　卓袋
一月ハ花ふのあてや旦ハ寺　沾圃
八幡ふ梅ふ春ふ　仝

岩菜

清水や蒜ふ　土あらし　嵐雪
菜の味やむ泥の　曲翠
夕顔の水ふきてる薺ふ　孤屋
一うふの牡丹ハ春ふ　尾頭

梅　附柳

きもの　芭蕉
きさらぎ　野水
ちる梅のあてん　其角
里方ふ雉きくや　昌房
投入や梅のあるハ蔵の墨　良品
病僧の春ふ梅ふ　曽良
あるふ　万乎

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

宵の月　土筆の若葉　闇淵
味噌や　梅の花　ふるあうたき　車來
蕨　ちる　咲　ふるもの　鬼あざみ　荒雀
梶　ちる　ちる　蕨　ちる　馬莧
踏　ちる　土筆の切口や　蕗の薹　拙候
ちる　例　形　ふる　ちる　土大根　乃龍
ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　正秀
味噌　蕨　ふる　ふる　ふる　夕可
日の　ちる　梅の　梅　梅　一桐
蒲　茗荷　茗荷　茗荷　茗荷　圃落

猫　附胡蝶

ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　猫の恋　探九
ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　猫の恋　文考
ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　猫　美佐　已百

白日　ちる　ちる

ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　柳梅
ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　惟然
蝶の　ちる　ちる　ちる　ちる　闇指

風　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　少　ふる　出羽　重行
ちる　ちる　ちる　ふる　ちる　ちる　ふる　ちる　雪窓

春鹿

振　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる

春耕

蚯蚓　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　沢雉
苟札　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　麻　木節
千刈　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　此筋

桃　附桜

白桃　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　桃蹊
金柑　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　桃の花　介我
伏　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　桃の花　雪芝
梅　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　桃の花　水鴎
ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　其角

江東の雪由の源文の虞四の法ちに
おのく　経文　乞　のもつ　ふ法　陀の
光　四　ちる　ふる　ふる　ふる　ふる　ふる　と
小坂　綿　小　光　と　や　ち　せ　ふ　つ　き　角上

殘香　洞木　野坡

歎冬　附鄙躅藤

田家の人に對して　闇指

山の雪　酒堂

山の月　雪芝

長崎　魯町

夏月

夏月　附夏を陸　荊口

荊口

荊口

徳おを自慢愛の名ぶり邪　文考

歳旦

あらたまのふるとしをこそ春ぶり　少年武仙

延命てしのうたらの所ぶり　百歳

うらうへたや雑煮ぶるてのぶるつき　尚白

まこと茶の見ふるてうらしぶり　圃落

冊方の汲めてらしやきを焼　山蜂

詩よいてる言葉を顛倒もとてるる

と老父の文ふと紙しぶれい

元日や おぶと言のうしと書　千川

人もうえぬまやぶたのうらの物　芭蕉

四うあのちのうふ晴しうち美　其角

楪の世伺ぶまてるや　嵐雪

万年やたかぶふらうて松の後　去来

年ぶてい搭えまてる雑ふぶ　土芳

ぶ四ぶやよく仕てるて伺法　凡睡

ふてしぶ孫をまあ　の梅の意

えてやまてしぶ　猿雄

ふてふふ　ふ四　ふ四　ふ四

[illegible] 朝鮮山　文考
[illegible] 如雪
[illegible] 芦本

郭公なくなくの声や中やすら　沾圃

木附草花

樗や日ふとられくる夕ぐれ　闇指
里〳〵の湯うりぬる夕ぐれ　野荻

園中ニタ

此中の古木ハ[illegible]柿の花　此筋
[illegible]切の者共ハ柿の[illegible]　千川
[illegible]百合の[illegible]ふる恋の糸　素龍

[illegible]山家の百合
白き[illegible]ゆりの[illegible]　文考
山の[illegible]ゆりの[illegible]　尾頭
[illegible]ゆ[illegible]　沾圃

[illegible]　伊賀人　守多都
[illegible]　拙候

園中ニ

[illegible]　沾圃
[illegible]　芭蕉
[illegible]　二人　嵐蘭
[illegible]　残香
[illegible]　此筋
[illegible]　白雪
[illegible]　良品

瓜

[illegible]　芭蕉
[illegible]　至暁

[illegible]

早苗

[illegible]　風弦
[illegible]　長崎　卯七
[illegible]　闇指

[illegible] 魚目
[illegible] 重行
[illegible] 北枝
[illegible] 文考

蛍

[illegible] 許六
[illegible] 野萩

納涼

[illegible] 半残
[illegible] 惟然
[illegible] 史邦
[illegible] 重翠
[illegible] 長崎 杜羊
[illegible] 万乎

漫興三句

[illegible] 洒堂
[illegible] 文考

生成とわちきくゝ [illegible] 雪芝
[illegible] 游力
[illegible] 仝
[illegible] 去来
[illegible] 正秀
職人の帳ふき [illegible] 土芳
[illegible] 我眉
[illegible] 里圃

盛夏

[illegible] 野萩
[illegible] 万乎

[illegible] 正秀
[illegible] 乙州
[illegible] 怒風
[illegible] 素覽
[illegible] 我峯

[illegible]　印苔
[illegible]　卓袋
[illegible]　里東
[illegible]　沾圃

竹の子

筍[illegible]　岸の崩[illegible]　可誠
[illegible]　曲翠

夏月雨　附夕立

[illegible]　出羽　不玉
[illegible]　烟　芭蕉
[illegible]　沾圃
[illegible]　拙候
[illegible]　苔蘇
[illegible]　暁烏
[illegible]　圃水

蟬

白[illegible]　正秀
[illegible]　胡故

[illegible]　乙州
[illegible]　暁烏

の川を

[illegible]　巣蛤

雜夏

[illegible]　杉凡
[illegible]　荊口
[illegible]　伊勢　如真

川狩

[illegible]　文烏
[illegible]　葛雫
[illegible]　水鴎

[illegible]　馬莧
[illegible]　重翠
[illegible]　野童
[illegible]　水鴎

晋の潤明を[illegible]

[illegible] 芭蕉
[illegible] 惟然

貪僧の[illegible]

[illegible]

[illegible] 文考

続の部

名月

名月ふふめるの芳也因のてり　[illegible]
名月の[illegible]て　綿畠

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文考評

[illegible] 洒堂
[illegible] 如行
[illegible] 露沾
[illegible] 智月

[illegible]　闇指
[illegible]　凉兼
[illegible]　不玉
[illegible]　配力
[illegible]　左柳
[illegible]　囲水
[illegible]　山蜂
[illegible]　凡国
[illegible]　需笑
[illegible]　重友
[illegible]　泥竹
[illegible]　文考
[illegible]　空牙
[illegible]　如真
[illegible]　宗比
[illegible]　木枝

[illegible]　利合
[illegible]　丹机
[illegible]　野荻
[illegible]　正秀
[illegible]　文草
[illegible]　景桃
家ふ三老如[illegible]
[illegible]　沾圃
[illegible]　馬莧
[illegible]　里東
[illegible]　牧童
[illegible]
[illegible]　芭蕉
[illegible]　仝
[illegible]　猿雖

七夕

立秋

栗めつゝ花ふたるうれの秋　露川
秋くれゆゆ中山ゆくゝ雲は峯　尤次

秋草

うくゝ雲の花遠雲を桔梗ゆ　柳梅
細ゆくれふくゝめ桔梗のうくゝゆ　随支
如市花ねゝのゝるる骨の海の郷　濁子
をくれ〳〵物仮の秋ふゆくれ　馬莧
一きちい花ゆくふちくゝ胡道　鳥栗
う国くゝくれゆ花くまい　文浪

贈芭蕉庵

百合くゝと芙蓉と住る金ゆ　凡麥
きくゝ蛇のゝくゝ蔦くゝ花　史邦

惟然　涼葉　東潮　沽圓　乙州

万乎　芭蕉　至境　雪芝　荷兮　桃妖　杉下　田上尼　闇指　凡麥　其角　可南　北枝　正秀　水鴎　杜若

朝うれ

うくゝの花くゝむ蓮月　秋　田上尼
あくくゝの這ふて花くゝ御ゆ　闇指
ふくくあくくれくゝて湯の糸　凡麥
うくくのくゝふくくれくゝ人ゆ　其角

虫　附鳥

きくゝうくゝの侍ふ絡ゆくゝ　可南
竈るゆ花くふ花くくふくくゝ　北枝
火の消て胴ふくくくゝ重の洋　正秀
秋の秋ゆ蓮と鼎ときくくを　水鴎
くゝの中ゆ形ふ細今〳〵月の花　杜若

蛙吟や何の味ある草の先　探丸
端渓の後といひながら石のと　葛雫
莖の寒ふ軒さきくらん撫の空　示峯
ぬけくゝ小ちらひて残る秋の蟬　文草
ゐるゝ物ふやゝくゝ浦の冥会小　馬莧
澄新や去る夕べ去る白川系　氷固
栗の穂とそあるる時や明翁　文考
老の名のおとしたてはけ崔　芭蕉

秋風

秋風や二寸ばかりこの行さ世附　游力
雀子の鼓色まもや秋の風　式之
何ふるとかくらくり秋の風　文考
杜の葉や初さふも秋の秀　凡国
おのつゝそのまゝと空分小　圃燕
ふんまるや空ふるふむ人ら黄　九節
あれくてまてはあり中ふれ　猿雖

稲妻

独居くゝ月ある夕ゝ稲の夜　少年一東

稲妻や走ふ夜の山の上　宗比
明石の浦稲妻ふ屋の屋根の瓦　土芳
いふつまや園の方ゆ又住の秀　芭蕉

木實 附菌

園栗の落て亦ゝ又ゝ為有
炭焼ふ淀稲ゝ玄虎
秋空やりれゝ柿の色　洒堂
住ふくゝと茅を分ゝ梅重翠
文川茸や塔ふ　一笠　沾圃

伊賀の山中ふ所更の生居を訪ひて

杜茸や新ゝ山の形　惟然
ゝ川茸やゝ山ゝ芭蕉

机

塗屋の塀ゝ北鯤

鹿

尻ゝふ新所の鹿や風の音　凡睡
森ゝふ鹿ゝ月ゝ　一酌

農業

[illegible] 車庸
[illegible] 買山
[illegible] 如雪

いせの汁從ふ山氣をそそれく

芦蕉
乃龍
斗從
支考
仝
惟然
木節

大師の孫ふまひて[illegible]

沾圃

[illegible]の花の[illegible]

蕉

[illegible]二百十日も恙なく

蔦雫
渭子
支考

髭画屋

[illegible]山路の蕉の[illegible]

暮秋

[illegible]の蕉の[illegible]

[illegible]秋の[illegible]

[illegible]秋の[illegible]

雜秋

[illegible]級一ツ

[illegible]の山[illegible]

[illegible]の[illegible]

[illegible]秋の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元峰
丈草
野水
乙州
芭蕉
之道
團友
畦止
四友
狩子
万平
宗波

[illegible]

[illegible]

[illegible]

柚の色や紅あらぬ葉の秀　其角
菊の葉ふるさと埃や霜の中　桃隣
八竹の葉やあつまる葉の秀　沾圃
何矣のかさ〳〵ふる雪菊の枝　曽良
葉曇あり雨あり雪をあつまる　馬莧

紫菜の隠士ヲ然の琴を弾を
ひのふる葉し滝のたゆ〳〵をと
むさゝう造化りうそふ乃〳〵
ふるの葉をまゝ引ておのつゝ
なるとをたゝいしあ重ねて
琴ゝうけゝるあ〳〵ぬやとゝく
ゝ人竹湖老人ゝ琴を送られより
ゝとゝ〳〵ゝ色と敷ゝてあるゝ
あゝゝふ聴ゝきあゝて風ふゝく
あゝせて自ゝゝりぬ
ゝゝをぬ琴や仙〳〵ぬ葉の反　素堂

草附木

ゝ仙や絲流れ〳〵の遠音　曲翠

氷固　惟然

少仙の花のゝゝゝゝや霧命しき
のゝ後を

范蠡ゝ趙南のゝ
山家集の歌ふ歌ゝ

一ゝゝとゝゝゝゝゝ蕉の水ゝ　芭蕉
山茶花いゝゝゝ風ゝく帰り花　車庸
ゝ柿のゝゝゝゝ川やゝゝのゝ　土芳
山茶花ゝゝゝゝゝゝゝ花稀　露笠

木茶　附冬拍　風

おゝのゝ〳〵木のゝゝゝゝゝ敷　沾徳
ゝゝゝゝゝゝ江の紛ゝ〳〵ゝゝゝ　露沾
ゝ川や木のゝゝゝゝゝゝ　惟然
拍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　択風

幸柳坊宗比の尾とゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　伊勢　一道
拍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
牛のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　杉風
ゝ拍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　桃醉
ゝ拍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　乃龍

[illegible] 利牛
[illegible] 支考
[illegible] 智月
[illegible] 凡行
[illegible] 惟然
[illegible] 塵生

夷講

[illegible] 芭蕉
[illegible] 利合

鳥 付いと

[illegible] 句空
[illegible] 葛雲
[illegible] 文草
[illegible] 闇指
[illegible] 芭蕉
[illegible] 在木
[illegible] 利雪

[illegible] 車庸
[illegible] 岱水
[illegible] 杉凡
[illegible] 拙候

[illegible]

[illegible] 里圃
[illegible] 文草
[illegible] 小春
[illegible] 支考

埋火

[illegible] 芭蕉
[illegible] 桃先
[illegible] 洞木

雪

[illegible] 其角
[illegible] 仝

[illegible] 夕菊
駒鶏 家ハ[illegible] 雲 祐甫
[illegible] 葛雫
[illegible] 文考
[illegible] 圃吟
[illegible] 文草
[illegible] 陽和
[illegible] 配力

神楽

[illegible] 史邦
[illegible] 路草
[illegible] 馬莧
[illegible] 許六
[illegible] 沾圃

燈掃 附燈[illegible]

[illegible] 残香
[illegible] 黄遠

[illegible] 馬莧
[illegible] 闇如
[illegible] 惟然
[illegible] 岱水
[illegible] 嵐蘭
[illegible] 馬佛

歳暮 附節季候 衣配

[illegible] 曾良
[illegible] 里東
[illegible] 草士
[illegible] 車来
[illegible] 万乎
[illegible] 李由
[illegible] 其角
[illegible] 正秀
[illegible] 荻子
[illegible] 猿雖
[illegible] 惟然

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

甲戌の夏大津ふ[illegible]　沾圃

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　芭蕉

甲斐のくにの山路を通る時

[illegible]の山路の山茶花かな

[illegible]て牛のよだれ[illegible]の秋　木節

猫舌や浮世をのがれる酒屋山　越人

ふくもふくついでに[illegible]の者　野往

出羽の国山形にて

のちの月[illegible]

[illegible]　公羽

十[illegible]の月[illegible]の秋の月　許六

大[illegible]の[illegible]に[illegible]　仝

[illegible]の絵

[illegible]　曾良

[illegible]　猿雖

[illegible]　我峯

[illegible]　史邦

田園の[illegible]

[illegible]の[illegible]　呂九

浅蒲園にて[illegible]の郎　沾圃

常陸の国[illegible]

[illegible]　支考

[illegible]　仝

元禄三年の[illegible]

より武[illegible]

驛[illegible]年[illegible]の[illegible]

[illegible]時[illegible]　芭蕉

○阿羅野

尾陽遠左橿木堂主人荷兮子集を編
く名をあらいとといふ何故ゝ此名有事
を志ゝを予たるこのふねめひやるふなと世
此郷の旅泊せゝ志ちもくの業稜をあり
をゝく冬の日ゝのふをゝ日のを寄続ゝ
きれ日まゝと世ゝうゝやうをけふや夜更
若やよひの空ゝ礼ゝ戦柳橋の綿とな
らをひてふるのおれゝさまゝくふる風情
につゝくいさゝこの實ををもれふものを
あれをふやいをゝふのいをのをゝるゝの
をゝれ宵のなをうふゝをゝて姫神の
のなゝふゝもつのをを雀の大空ふを飛色
てゝ空ゝ多のきをゝまゝりなを遠空ゝのゝを志
ゝ多ををむと此野ゝの系れ弥ゝをいをれる
へゝ

元禄二年冬

芭蕉桃青

曠野集

花三十句

よしのゝふく　貞室

吉野ハくゝとゝきすの花の芳野山

春雨の花ぬれぬるる花のあゝ哉　路通

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　信徳

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　晨風

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　友五

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　尚白

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　去来

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　野水

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　亀洞

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　越人

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　一井

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　津島　俊似

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　蘭渭

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　舟泉

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　胡及

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　長虹

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　津島　卜枝

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　岐阜　鳴分

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　荷分

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　傘下

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　薄芝

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　さつ

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　心苗

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　越人

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　野水

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　冬松

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　冬文

春雨の花ぬれぬるる花の枝哉　荷分

酒のゝ居くる人の袴よ　芭蕉

酒のゝ居くる人の袴よ

酒のゝ居くる人の袴よ

酒のゝ居くる人の袴よ

ほとゝぎすと関所なくものゝ恐なく故事なし　李吟
ゆる霧の夢月えつちんほとゝぎす　素堂
月ふかき夢ふかほとゝぎす和ろうを
いそのしきなるふぢなろう　郭公　釣雪
蝿帽のひゝりゆうしやや　蜀魂　越人
杉ひゝしみのはまゆみきろや　時雨　津島　松下
跡や先蒙のくゝ　ほとゝぎす　重五
ほとゝぎすそれうらきろむ　柳風
ある人のおもひて殺ひとし有り　桃夭
わゝきもきかもかぶき　島の月　蒼岸
ほとゝぎる　光明や　なゝきて　落梧
坊屋奥き　蒙えう川や　郭公　一髪
三ほとゝ跡のとうしやほとゝぎす　同
淀ふゝ
わゝきて　口かたやきぶ　風泉
時しさや　森ほうる　光のほとゝぎす　吸泉　杏雨
あれしや今　ほとゝぎす　傘下
ほとゝぎす　郭公　同

鳥ほとゝぎすにあひうたゝ　鈍可
ほとゝぎすあひうたゝ　吟せら　大津　智月
おうとさ　ほとゝぎす
ろうとろう　ほとゝぎす　郭公　李桃
うりのうとほとゝぎす　市山

月三十句

かるゝ　月ぶ　土蔵　梅舌
それうや　月える　井のぶ　湍水
月ひとり　ぶ　一雪
面の月　ぶ　越人
けうとき　ぶ　昌碧
屋ゝ　月ぶ　津島　市柳
きりけふ　ぶ　一髪
とうとうとえとうを　ぶ　長虹
雑まて　ぶ　月見の那　任他
一ツ屋や　ぶ　亀洞
名月を　ぶ　越人
名月や　ぶ　文蘭

名月や ういてさそくさ ぬれ雲 昌碧
ちいけつやそそくしてあるく 夜の中 華下
名月や 敷のあうと 犬めの声 二水
月々の 夜をえて人の 月々 野水
名月の 名いをきさう
ぬつつと月と月々 月は 荷兮
いけのもとあとを 忘れて 居也 同
名月や 海とおもふ 山のえを 去来
名月や 夜戸とあ 月は 胡及
めつらつあつ たつ 梅の 釣雪
宵あさし 橋はさ ぬや月の影 一髪
十三夜
新そば 枝さらぬ 極える 月夜小 杉風
朝日
夢とのふ 月の 郭公 梅の果 荷兮
二日
月々人 かと 月の 月 同
三日

四日
名月夜 あんと 心 卜枝
五日
何日と 月 宵の月 伊豫 一泉
六日
湯河 ふ 月 岡崎 鶴声
七日
能 ふ 月夜小 岐阜 一髪
雪二十句
大 ほ
雲の 月夜 顔の色 其角
いさ ぬ 顔 芭蕉
竹の 雪 京 塵交
かさ 雪 加賀 加生
車道 雪 加賀 小春
雪 雪 顔 人
は川 雪 戸 月 月 是辛

[illegible]の[illegible]の一ツ小　松方
[illegible]　水
雲[illegible]　鳥仙
秋の[illegible]　岐阜　除風
[illegible]の[illegible]川[illegible]　[illegible]河
初[illegible]　傘下
雪の[illegible]の[illegible]舟[illegible]　芳川
[illegible]の[illegible]　[illegible]文
[illegible]の[illegible]　桂夕
[illegible]　荷兮
[illegible]　路通
[illegible]　野水
舟の[illegible]　芳川

歳旦

二[illegible]　芭蕉
[illegible]人の[illegible]　譯　古[illegible]
[illegible]　凡鈴軒
[illegible]　[illegible]角

[illegible]の[illegible]　去来
月[illegible]　一[illegible]
[illegible]　[illegible]
元[illegible]　路通
[illegible]　一笑
蔦[illegible]　大垣　如行
[illegible]川[illegible]　岐阜　落梧
[illegible]　亀洞
[illegible]浦[illegible]川　同
[illegible]　大山　昌碧
[illegible]　元廣
小[illegible]　舟泉
[illegible]　同
山[illegible]　重五
[illegible]　鈞雪
月[illegible]　同
[illegible]
[illegible]　井
[illegible]　胡及

[illegible] 長紅
[illegible] 彈
[illegible] 同
[illegible] 滯水
[illegible] 京 [illegible]
[illegible] 朴什
[illegible] 冬文
[illegible] 傘下
[illegible] 冬松
[illegible] 柳凡
[illegible] 防川
[illegible] 昌勝
[illegible] 夕道
[illegible] 梅若
[illegible] 野水
[illegible] 同
[illegible] 越人
[illegible] 同

[illegible] 荷兮
[illegible] 野水
[illegible] 津島 俊似
[illegible] 春
[illegible] 藤羅
[illegible] 岐阜 素秋
[illegible] 玄察
[illegible] 鴉歩
[illegible] 越人
[illegible] 落梧
[illegible] 髪

初春

[illegible] 越人
[illegible] 野水
[illegible] 俊似
[illegible] 春
[illegible] 藤羅
[illegible] 岐阜 素秋
[illegible] 玄察
[illegible] 鴉歩
[illegible] 越人
[illegible] 落梧
[illegible] 髪

みのむしとなれるかのそうふ　蕉翁立

紹代民部の息ふ遠く

梅のはふなれやうそふや梅の花　芭蕉

うくひすもの哀をこなる花の形　長良　若風

夢の哀や屏風ふ所をみる　去来

四季のや夢ふまるちの絵　伊賀　一桐

夢おちひさき蕨と採ら是　津島　一笑

うくひすのあくへ晩ふる所中ふ　日市　柳

夢ふかうしなるやあ屋敷　夢々

うくひすふかの波ふ　梅舌

ちとらもむ夕ちうの野の邸　野水

汐くくく径のうそ　臺交

行人の墓とふ所ふ　冬文

加見ちやまとうけうふの一二ま　芭蕉

うまうふやまるの眼のとふくと　傘下

多仙の名ふ名とまふ法ふ　路通

蝶多と行ふ　荷兮

さ　亟題

つとさとうとのかのめとるとふ　兵泉

接木

つまれるつうふ　金二

椿

晩の約束ふあうる　荷兮

同

蕨ふつく嬉氣のつる接ふ　卜枝

春雨

ふる白いせのふ一のうの孔　滿水

同

夫の雨ふとも呼ふこよ　菊弾

白尾鷹

ふやふさの尾つまけふる白尾ふ　野水

蝶のいふまる白ふくふ　音生

三河ふふふふふふふ　十歳　亀助

ふふふふと紀ふ掃ふつくふ　舟泉

ふふふと掃やつふやふ　角

ふふふふふふふふふふ　蕉

塩年
文
青江
素堂
野水
越人
一笑
小春
一笑
昌碧
杏雨
此橋
杏雨
松去
校遊
何分

蘭亭の主人池水翁とやせられしく
筆意有るかのごとく俳諧まことに御法
風のごとく方丈移りやあさかの邪
行るものなりとまゆく柳の邪
ちゝ柳さくもあるをおりしろし
乃そのうまやさくもあるる柳の邪
まつれ春くも柳ふ風ふうろむ
ふうつきて代をうむる柳の邪
さくをとより髪のゆうまぬ柳ふ
ふうつをを柳ふ柳のうくやれき
ふくふ水牛のうきしくく柳の邪
吟風ふ摩ようをるやれよふ
ふをうるぬ月ふつろ
ふをうりをふ反法をまつぬ柳ふ
何分

蝙蝠ふ
ふう月のやれき
素秋
鳥北
生林
春
蓼の葉ふ菜のくれうる邪
不悔
菜の花や柳葉のふまのいのふ
長虹
なの葉の変ふつるるれる
傘下
菜の花の陰ふ柳をなるふ
清洞
うくくれたをで烟の川藜の邪
去来
万歳と仕葉くうるる国うれ
昌碧
つきまて柳をくらくさくふ
越人
庵庵ふつ年うまくふ
笑艸
ふくさくハ義千ふくふ
除風
くのくくふくとくつ橋ふ
一橋
うくろうくら泥ぬ四のくくふ
冬松
ちくくくやくれ月んをくくち
髪
ふ風ふちのくくつる雪雀ふ
野水

除風　雪　塩車　山寄　宗鑑　落梧　越人　吉来　落梧　津高　松下　井　柳風　梅餌　炊玉　百歳　林　患　荷兮　浄水

春

草川に菫摘とて　弁泉
野辺の若草摘ばやと　鴎歩
春畑の人たるもの　杜国
えけ山や　大坂　或之
ほろほろと山吹ちるか　芭蕉
松明ふやす夜もしら　野水
山吹とてふのまされぬあくしか　卜枝
一ちらと山吹のそく　岐阜　徒雪
ちらつかせて山ざくら　同　蓬雨
あるふるもゆるもあるぬ　去来
古屋の巣の土ぬりもを　燕　俊似
いまきくとつばめのつらの　長之
燕の巣を飛ぶ甲斐　長虹
芦寄ふたてるさんくる　蕪　竜弾
友減て雪をうひなや　夜の雪　旦藻
角屋くやもくもるふ　廉　笠
なるる濃ふ新よ入浦の　塩干ふ　越人

[illegible]

人[illegible]むと水と陸との[illegible]千ぶ　三倫　傘下重

山[illegible]ふ[illegible]ぶ　荷分

[illegible]　兼正

[illegible]　亀洞

[illegible]　卜枝

[illegible]　野水

[illegible]　同表

初夏

[illegible]　路通

更衣[illegible]　傘下

[illegible]　釋龍渾

[illegible]　肖柏老人の[illegible]

香[illegible]　荷分

[illegible]

[illegible]

山[illegible]　荷分

[illegible]　芭蕉

[illegible]　一井

[illegible]　越人

[illegible]　岐阜　不文

[illegible]　同　藤蘿

[illegible]　亀洞

[illegible]　竹洞

[illegible]　鈍可

[illegible]　夢々

[illegible]　玄察

[illegible]　生林

[illegible]　作者不知

[illegible]　鈍可

[illegible]　嵐蘭

[illegible]　落指

[illegible]　岐阜　李槐

[illegible]　鼎巡

[illegible]　吉次

深川の寓ふく　庵の春をしらくありぬおもふ　元雪
けんしさのさいはわをたがひこる　野水

仲夏

宵の夏ハ蚊ふくるるふくるる　櫻井　元浦
刈茅のるるほふきるほたるふれ　一髪
寒てくさ陸ゑをのわくる蛍ふ　不交
寒さよわくくさ人ゆ蛍ふ　風笛
乃河ハ追ふ蛍ハのわくるふ　青江
るの夜ハひとうり蛍ふ　含帖
くくくくの徒より蛍るわくふ　卜枝
の河ハ蛍くる徒のほくるふ　鴎歩

そそて葺室とふられくこ
くくくく

曲江ふ梅の花えぬうぐひす　梅舟
暗の巣のええくりあるいとれう　路通
松ぐさの緑をえてくる夏陣の形　卜枝
虹の根とこの原四ぢの橋ふ　鉈可
蒲の花や流ふ夕ぐれ宵の月　同
塔ちるや蓮絵書く人とうらむらん　越人
冷〻や灯のと涼夏のあさ　藤蘿
夏の松やくもぬふ蔦ゑる里　旦藁

菴の夏寺ふ

もとめくさくさくさくさふ夏の草　其角
夕ぐれや秋いい鳴くの蟲ふ　芭蕉
ゆくすのもちむ人の志めく　野水
夕の秋いかのるたくめくさふ　偕雪
ふ絵ふてクちゆみくるのれふ　市柳（津島）
名い多ちまよ夕ぐのほふ洲ぐ多く　長虻

暮夏

橋を渡くゆりく弾のこ夏　昌碧
きの蜜徒ケけふくさ泊ちり　野水

夕ぐふ干傘ぬるく垢穢この邨　傘下
ちくしきふ橋をやらぬ人落ふ　玄旨帷
涼しきよ白雨かぐら入日うけ　去来
落しく涼しや宿のむ月ひくに　荷兮
むき屋の砂あけうぬくもうふ　同
おかをれのくふ夕ぐ夕涼く鳥海　如風
花石の石ぬや茶のトちくみ津島　俊似
涼しきや樹のトゆくふの吉　仝
桃燈のとこやらゆうく涼く舟　卜枝
ちくしきをこわをれてかくふ川ぐふ　木学
吹ちうてちのくゆくきの邨岐阜　秀正
蓮ちむりちくやさいわるくとと松坂　晨風
蓮をぐてみれくく蓮ちぐ多ぐ　古梵
河骨ちのわまちのちぐ生のれ　芙水
ちらくくちちちうよ松の出蓮ふ　長虻
ちくきりくく沙干の沖の清ちふ　俊似
連あ雨とぬちくく清ふ清水ぬ　文瀾
川ちくくるふのまちる志ちの川ふ　潦月

かくしらい淡雪ふるてひかるかな　尚白
雪をぬくとをふ法しふるの　一髪
雪ふりや幕とふるふをたちくる　卜枝
蔵の家はなるわをとりるの路　岐阜　李晨
物語とをの淡ふ付くるるふるふ　越人
綿のをたくをしく蘭ふ仰るふ　素堂

初秋

ちらくるやあ蔵外あとの秋の風　越人
桐のをやをくれうしん秋の風　圓解
松は雲居の寄ふく
一をををを

とゝしくのふる枝ふ言ふこと落う舟　俊似

仲秋

かなしまふ鳥のとまろう秋の夢　芭蕉
つゝくゝと俤とをる秋の蔭　加賀　小春
谷川や茶碗とをく秋の音　津ち　益音
石切の声と共ゝり嫁の入　傘下
奔のねや塩ばいるあさけれ　上枝
乗の声ふ人の臭ゝるゆふへふ　髪
母と烟をひろうやるのむ夢ふ　伊豫　泉
山畑ゝ乗ゝるつゝくゝ芋ふ　重五
お茶ふ入たゝとゝくゝる酒の烟　其角
ゝ人とかのひてゝるおぶふ　東順
義の中ふおゝゝくゝ枝ふ　林斧
ゝやれく地ふ芋の会れ　越水
ゝ者をゝゝ秋の芋ふ　宗和
ゝ茶者ふゝゝ秋とゝ　加賀　地枝
秋の月我なゝ秋とゝ

素堂へまゝゝ

越人　防川　舟泉　朝及　暁龍
たゝその芋のゝ芋つゝ
一本の芋の根痩しゝ
松の木ふ吹あてゝ
ゝ川ゝて春ゝ
ゝふと市のゝ

関ふ芋ふ牛ふあひて　其角
ちて祐孫ゝ　宗
ゝのふく

芭蕉　一笑　加賀
きゝゝて我ふきゝ
いゝゝ野ゝの

暮秋

なゝれく植ゝ芋の白ふ　巴丈
芋ゝ角のちゝゝ　昌碧
山ふの角の芋ゝ　越人
一言や似ゝゝ芋の　暁龍
荷ゝゝ室ふ藤ゝ
とて荷ゝゝる土器
かゝらけのゝきゝ

其角

きくの香ゆゑ人や髪帽子　其角
くふなりて兼信らうとをひろう　二水
かなりて若さく雪の塔ぬ　伊勢　千岡
淋しさい檀の実崩る仏ぬ　濃州　芦夕
陸の奥やものこす寸ちぬ花ぬ　如生
芦の穂やまゆく雲ぬ　路通

初冬

あえつものそれしくるる時ぬ　湖春
京なる人ふや雪しくるる　一笑
一夜きて三井ぬ　尚白
ちりきれ行おかひ出すこの夕　湍水
方句無ぬ　其角
ゑをうの雪人人ぬやうの時ぬ　荷兮
人を待うちるる日ぬ　落梧
今朝く花京をうるる雪ぬ　炊玉
猪ゐの方後のこす　傘下
つきしもたく雲ぬ　荷兮
そうしぬ二日の月のこちる

一髪
一井
落梧
胡及
文鱗
卜枝
洞雪
一髪
松芳
杳雨
蕉笠

一髪ぬ柿の実ぬ　同
このそうく弥生ぬ　同
枇杷の花人のうをたる　同
茶の花ハ白のつてふ　李晨
梨の花ぬ　野水
蕎麦の川ぬ　昌碧
蕎麦ぬ　同
のうう雪ぬ　一井
徳ものとうみく　落梧
石向の砂ぬ　胡及
まくもうぬ　文鱗
ぬうう白瓶ぬ　卜枝
ぬ雪ぬ　洞雪
蓮池のうう　一髪
雪ぬ花ぬ　松芳
ううしぬ吹　杳雨
雪猪の砂ぬ　蕉笠

寒月

燈と出るく家くに月を白白き　野水
あき涙の大根あらふ日枝の雨　俊似

仲冬

おろ〳〵く絵ものうれる霧の雨　津島　勝吉
ちらほらとつもてたそこる霧の雨　同　重治
捨ものもる馬糞ふまれる行られ小　林斧
笠の戸とほく〳〵るふゆむ霧の雨　杏雨
いく〳〵けるぬをおろせあ〳〵ぶ　宗之
青の花せんこんの実のこられろ　杜国
ふ根の茅のぎふえんこるる小うめ　勝吉
海を池氷のこをうの服をくも　俊似
つきうく〳〵まり地ろをうを蔦小　除風
手をとるく〳〵行ものしきき小枯小　夜舟

兼題雪舟

時より雪舟雪ふろ海を海の雨　荒弾
ぬつくりと雪ふ雪ふるふる　荷兮
枝をこめて雪ふ雪ふ雪ふ　長虹
るる船より雪舟川ふを船の車　一井
雪舟川や佛むかもふふこうてみる　亀洞
つまのこく〳〵ねこを雪ふの雪ふ　倉岱
まる海や羽白思鶴赤のしら　白炭忠知
舟ふく〳〵火ふ雪ふこのるふを小　亀洞
朝鮮とこるあるふんなふる　村俊

井と掘る老い六月を〳〵年ふく
とこいろ裸うたろ

汗出て苦ふ突こむ小宮小　冬松
海嵐陽の毒蛇ぬこき氷宮小　利重
炭窟の穴ふく〳〵ちる蔦ろ　亀洞
膝部をつこえとる雪きこる　塩車
火ふて雪ふ雪ふ蛭（かぎ）　一笑
りこけ〳〵庭部をををを　亀洞
ふ武〳〵海こうこうこうこう　芭蕉

歳暮

餅つきや内ものこをこを海くこひ　李下
古雪〳〵よあぬものあり年の雪　尚白
ものの花の後いこ〳〵ちるへ〳〵　野水

[illegible]　亀洞

[illegible]　一髪

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]　荷分

[illegible]　内習

[illegible]　亀洞

雑

年中行事内十二句

供磬蘇白散　荷分

春日祭

[illegible]

石清水臨時祭

[illegible]

灌佛

[illegible]

端午

[illegible]髪[illegible]

施米

[illegible]

乞巧奠

[illegible]

駒迎

[illegible]

撰虫

[illegible]

十月更衣

[illegible]

五節

[illegible]

追儺

[illegible]

詩題十六句

今日不知誰計會　野水

春風春水一時来
逐々添ふまゝに流るゝ春の風
白庁落梅浮澗水
ふるのたゝずまひ梅白し
春来無伴閑遊少
花雲ふかくもるゝ春の山陰ふ
花下忘帰因美景
春人なくものいきせよ花の下
留春春不留春帰人寂寞
りきもりゝえうの路ふ
巖風吹袂衣不寒復不熱
衫脱いれの窮ゆのふりゝ
池晩蓮芳謝
蓮のあるもりゝ
暑月貧家何處有客
来唯贈北窓風
[illegible]切ゝ小の窓
大底四時心総苦就中腸断是秋天

雲の底それらてはなり秋の空
夜来風雨後秋氣飒然新
秋の夏を忘れて瓜よりゝ
遅々鐘鼓初長夜
耿々星河欲曙天
一ちきりのゝ[illegible]
残影燈間墻斜光月穿牖
独寝や浪ゝる白ふまゝの月
万物秋霜能壞色
白菊や寒ゝて花と秋の香
十月江南天氣好
可憐冬景似春美
ゝの〳〵ゝ[illegible]
寂寞深村夜残鴈雪中聞
[illegible]
白頭夜礼佛名經
佛名の礼ゝ燈〳〵白髮小
淳剣の撰ひのゝ[illegible]

鋸鍋目立　舟泉

付木突

鉤瓶縄打

糊賣　越人

馬糞掻

李夫人

魂在何許香煙引到焚香處

楊貴妃

雲髩半偏新睡覺

花冠不整下堂來

昭陽人

小頭鞋履窄衣裳青黛點眉

眉細長外人不見々應笑

西施

宮中拾得娥眉斧不獻吾

君是愛君

王昭君

玉貌風沙勝畫圖

午

みあひよ蕚千よを踏をを

未

蟬の声ふ武家の夕合ろあろ

申

五月雨や鶯ろまろる作を

瓜ふあ〻く生をろる竜鱗〻

山猟

康軍のよるとろすあをれさよ　樹水

野鳥

時雨の引く紅もきりあ〻ふ　児竹

里虫

枝ろろ虫ろにり置漆水　舎呫

海魚

ろとろと鯨川ろと盆の月　仝

川魚

秋の昏鯨川〻の光ふ　仝

出馬四足是謂天落馬首

穿牛鼻是謂人

一方い拔きく拔の継ホふ　越人

藏舟於壑藏山於澤謂之固矣

而夜半有力者負之而走

かろなろ師匠の市みるさえ

絶聖棄知大盗乃止

七夕と物のそこをなるむう

銳者夭

ゑをそ〻帰なるさ力ふ　桂夕

純者壽

鶴沈の者〻なるまて〻ろ邢　市山

藤房

ほろきを咲ゆむ時をろろあろ　一井

師直

ろろ〻〻ふをろる荊の形　長虹

一休

ろ〻〻のろちをろ〻ゆ月の冬　端水

法然

四方のつくろひもれきうつくしく　荒磯

山岩

ほそくやせ〻ゑりし滅るこの岩の角　滿水

海岩

苔ふるし〻海中に土もかくれなし　仝

名所

八雲の昔し奥とたづねる武田小　杜國

きく矣の背や武蔵の大江山　荷兮

かしく侍れ松を見るより明かく　芭蕉

菓一把ふるく花を見る白髮ふる　滿水

須磨まてはたゝのあるこゝ　荷兮

琵琶橋眺望

竜蛇る鬼嶽さひをはせ　舍帖

関ふえて家を巻しろふ　宗祇法師

美濃國関しろ山の山寺

茂の花ふるとたてゆくしるべ

青野をて布ゝ青をてし更衣　杜國

巻うつ川や門かれき志賀の里　重五

ゆ月ゆふ〻のくれぬものや田の稲　芭蕉

湖のゆまきりくゝと月雨去来

牛ゆ〻しるゆのあくうの月夜一髮

角田川山く

いとのくれ塔婆の鈴ふる人都香　貞室

みよ〻ゆくいのふ杖を見の音　破笠

いとよひしほとけしらしなの郡ふ　芭蕉

夕月や枝ふゆるゆる角田川　越人

九月十三夜

茂ゆふ〻をあくゝ八々ふの月とえよ　煮堂

略実のるゆることをゆる田の秋　胡及

略実い芦ゆのあくのひとゝふ　淵支

武蔵野やいくゝふをえる時雨　舟泉

湖を石行くゝえせんひらゝ舟　尚白

かゝ侍やちまりあそせくゝ初月　伊賀 随友

むさゝゆゝとゝとゝあの月あゝふ　洗恵

ゆくゝとゝけあ嵐を結や小松の奥　俊似

ゆくくれの稲海鶴や小師の奥　津島 一笑

雲のたえ間より月のもれ出るやうなる野水
唯大雲の夕のなごり
芭蕉
早稲の穂をそよめかせ吹くや四月の風
如行
あるの月や不破の小萩の盛りなるらん

旅

雲雀より上なき天や下もなく海と陸との邪　芭蕉

大和国平尾村にて

花の影寂しさ佛生の邪　仝
桜さく里を眺るに春の暮
夕楓
日の入や鐘の音の上野の山
一髪
のどかさや湊の音の生きこの邪
荷兮
ひらひら行く海ひぬ衣々へ
芭蕉

ある人の餞別に

おくるきぬ衣おくるに冬ごもり　除風
春ごもり食ふに寄て冬の山
冬松
はるばるとたづね来たる旅の暮
昌碧
月日の光や花の目ときて市の友
松芳
夕ぐれの大名の一ぎは傘下
傘下

芭蕉翁を送る

鶴の声ふるしぐるるなごりの邪　釣雪
なごりをしてて袖ふるるる秋の蝉
一井
牡丹ふかう行くるわの月の野水
ものいそしくくくく秋のくれきよ
舟泉
音を絶たもとをたふ秋のあと
鼠弾
ちらちらなる人くふしひて
荷兮
文殻の月ちに二人ふとらはけて
越人
越人旅立ちよりまて京のうへ
野水
ねぶり猫長つをよるるのうへ
芭蕉
おくれつあるるかをてい山の秋
芭蕉
鶴の巣れ芒かをやく秋のいか
路通
特望橋ふ鹿とかの川きよ秋の山
荷兮
特望橋ふ角ぬれむび曲るとく
京
くまりく橋をの岩あかるくく
ちり
入月ふ今をたしけりとまりぶ
玄察
能きたを舟ふ手磯の邪
一井
西川をくふとるとくく

[illegible]の墓とかの色の秋の雲　文鱗
[illegible]　芭蕉
[illegible]　津島　常秀

四海の[illegible]　芭蕉

[illegible]　荷兮
[illegible]　野水

其角ふかの[illegible]

あ[illegible]　荷兮
[illegible]　越人
[illegible]　傘下
[illegible]　宗因

越人と吉田の[illegible]

[illegible]　芭蕉
[illegible]　仝

述懐

竹尾と[illegible]　路通
[illegible]　快宜

余所の男し越へめを[illegible]　落梧

高野山

[illegible]　杜國
[illegible]　梅舌

高野にて

又冊の[illegible]　芭蕉
[illegible]　荷兮
[illegible]　仝
[illegible]　杏雨
[illegible]　杉風
[illegible]　亀洞

九月十日[illegible]堂の亭にて

[illegible]　嵐雪
[illegible]　暁瓢

人の[illegible]　芭蕉

旧里の人に[illegible]　辻國

鎌倉建長寺にまうでて

[illegible]　越人

[illegible]

[illegible]　荷兮

[illegible]　甫弾

[illegible]　去来

[illegible]　西武

[illegible]　芭蕉

[illegible]　除風

[illegible]　越人

憲

[illegible]　伊勢　一有妻

[illegible]　除風

[illegible]　長虹

[illegible]　文瀾

[illegible]　冬文

[illegible]　心棘

六宮粉黛無顔色

[illegible]　長虹

[illegible]　尚白

[illegible]

[illegible]　荷兮

[illegible]　小春

[illegible]　越人

[illegible]　俊似

[illegible]　舟泉

[illegible]　嵐蓑

[illegible]　松芳

[illegible]　冬松

[illegible]　昌碧

無常

末期う

[illegible]　守武

無常迅速

[illegible]けしの畠　傘下

末期う

南無やそ[illegible]有明の[illegible]　坡　元順

松坂の浦瓢[illegible]人の[illegible]

[illegible]

橘の葉う新[illegible]　荷兮

いもうとの遠[illegible]

[illegible]　京　去来

[illegible]の小成と[illegible]　荷兮

世をとやく[illegible]

[illegible]月の相の一[illegible]　野水

辞世

あ[illegible]　灯[illegible]一[illegible]主コ[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]　落梧

一[illegible]野[illegible]

[illegible]の[illegible]　釣雪

[illegible]

雪下[illegible]妻の[illegible]　自悦

[illegible]

[illegible]　去来

[illegible]

その人の[illegible]　其角

[illegible]

[illegible]　尚白

[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]

[illegible]　兎弾

[illegible]　加賀　小春

伊勢[illegible]

[illegible]　芭蕉

[illegible]　兎弾

西行上人五百歳忌ふ

[illegible] 荷兮

[illegible] 胡及

連翹や[illegible]日と[illegible]とれて[illegible] 松芳

[illegible]の[illegible]の菓[illegible]る二[illegible]ふ 杜国

[illegible]辰[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible] 冬松

[illegible]と[illegible]散[illegible]系の[illegible] 其角

[illegible]ふ酒[illegible]ん[illegible]さうれ

貞享つちのえ辰の歳弥生一日

東照宮の別當僧正の法房ふ慈恵

大師迂座執事法華八講の[illegible]

[illegible]れい聽聞ふ[illegible]序品の[illegible]と

散花の[illegible]ふ[illegible]ん[illegible] 越人

女房の袖[illegible]

[illegible]あり龍女成佛の[illegible]

[illegible]と鼻うむ声の[illegible]

[illegible]と[illegible]ん[illegible]む 仝

[illegible]の尾上の[illegible] 俊似

古寺やつきんかうの華 一井

八果[illegible]

法[illegible]の[illegible]ひろむやうんふ イヨ 千閣

[illegible]の紅牡丹 一井

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]の

石竜小施餓鬼の柳のうつるこの水　八里
魂棚無り酒を注ぐ寺刹　亀洞
たまゆらの夏ふるさとあるる地蔵尽
樹蔭のもちをそなへ松の蔭　釣雪

平等施一切

樹蔭のうつるうつり人をとうとうと　俊似
稲妻小大仏をとむ堅中小　荷兮
塔紙の引導聚く大仏小　卜枝

なる人四門の弟子ありとて
新しと不合不図さんと感しく
赤ん坊とうとうと寺
屠るとぬ仏ゆかるるあて　荷兮
ある寺の無行小
夢と古寺の談うとうく　其角
ちらちらと星の水の月の水　一井
仲のあふ水仏の法師小　卜枝
人のかうかうとうとうとうとうる
ふまとうとうれうとうる

ちらちらと又ちれ〳〵うう一問　百　荒弾
湯倉い安居論寺あて
ちらちらの湯や寺〳〵ゆるらむ　越人
古寺の雪
嘆や　伽藍〳〵の雪見とひ　荷兮

同

寺形やううる　二王の片腕　俊似
つつうちちちちちれるる雪仏　一井
新蕎麦る人のさりや　神〳〵　文潤
千観ゆるるるるるの〳〵年のうれ　其角

藁王品七句

如寒者得火

ちちちちちちちちちちちちちる　胡及

如裸者得衣

雪のうや湯殿の人ひまの　乱

如商人得主

双亡のちちちちちむつうち小

如子得母

竹さてゝおもゝたゝつてはけゝ　釣雪

如渡得船

春のそら蹄の後ゝきらゝかゝり　荷兮

如病得醫

うるゝゝる淋のゝ行る　少之丸

如暗得燈

秋のあゝやおゝひゝる時ふゝきゝる　仝

神祇

立ゝやゝ立ゝる立ゝ　獅子洞

二月廿八日

ゝきらゝゝやゝ廿四日の春の梅　荷兮

ゝんゝゝゝ

祝

有がたさいくとのふなりぬそ宗く　冬文

荷分う四十の考ふ

武まを作そまく　ふるゆるうれ　重五

考う代やうう　てれきむつを　越人

考吉い何ゆよ　宝流沖の石　傘下

いくうう海辺のよふ杖つうむ　亀洞

子代の秋ふりひふまう　ふう　同

きをーうれるうふゆ考く

生殺く物とゆのうきとうり　芭蕉

曠野集貞享

雑う花うちうきうむきを孔う市中ふ

ひうく朝の家ふきを孔毎孔東四明

北麓ふ宵く花のうろうふきを孔と

きうきうく佐川田表六のうーの山あさ

千ふくくいる家と実ふうんすう又

麦冷ーうとうやうきふ

此句尾陽の野ふうの他ふて芭蕉翁

の俳ーとなりきりふ考ーふ此の川沿

田野へ居とうつて実ふ好るを感す

ひうあまと有名る人の中ふ虎の狐信

きふうふうふ逆えれうる人あうて独う

色と宗ーうるふ　城のふりふへの

ふううるう花のとー様をきて賓

にうる三色のうとうおうとーいるう賓の

宗老杜のうろうるとやれ反のうと

きうひく

考とうきう紙花ふうりあ反れし　志ゞ堂

[illegible]文人のことつくる[illegible]

と三人[illegible]

[illegible]

[illegible]の路と志[illegible]　野　水

[illegible]の[illegible]　荷　兮

門の[illegible]　越　人

[illegible]の月利と初秋の[illegible]　水

武士の[illegible]山[illegible]　兮

[illegible]　人

[illegible]　水

[illegible]　兮

[illegible]　人

[illegible]　水

千[illegible]　兮

[illegible]　人

[illegible]　水

[illegible]　兮

[illegible]　水

[illegible]　人

[illegible]　兮

[illegible]　水

[illegible]　人

[illegible]　兮

[illegible]　水

[illegible]の利根の川舟　兮

[illegible]　人

[illegible]　水

[illegible]　兮

[illegible]　人

[illegible]　水

[illegible]　兮

[illegible]　人

[illegible]　水

[illegible]　兮

[illegible]　人

[illegible]　水

[illegible]　兮

[illegible]　人

[illegible]　水

[illegible]　兮

[illegible]　人

[illegible]　水

大根をさらさらと干ふいてうし　兮
を歳や浪ふ寒さを凍て凍て凍て　亀洞
はるの舟ゐふ酒のわるさ　荷兮
のとろやあさ酒ふ若と解く　冒碧
百姓の懸る茶ときけて　野水
夕月のさのの白さとうち流　舟泉
あるさの蓑と旅ゝ引きぬ　釣雪
ウ　蔭のあるさとさ高きぬ所をや　筆
一路さしてこもきとも古綿　亀洞
ゐの寒ふ三年くる宮籠る　荷兮
乗るひとおりの年一業　冒碧
いとともあくてめてゐ義遠　釣雪
湯後まあとの水路ゐ川也　舟泉
強やと延ばてゐる川の湯　野水
たらゐされしやゐ月　荷兮
秋風ゐ女卑い繋ととと　亀洞
徒を家ゐさ強盛の法師　釣雪

附ふかのさくゐくめる花の寺　昌碧
八幡山吹をそそなるふし　野水
二日のそやゐふ何せんひとのふ　舟泉
ゐやをゐふ出ゐ相撲　亀洞
向まくゐ実やるひるの小曲あて　荷兮
垢離かく人の名ものの数　昌碧
駆所みゐ千奥の加減ゑゑゐ　釣雪
雲ゐゐゐるあゐのわそく　舟泉
むく起ふものひつきく赤瞬り　野水
口をゐゐ茄るよりとむ　荷兮
いゐゐて芝居所の藪ゐゐし　亀洞
かりへをてゐれを言田風　釣雪
雲ゐとひるたゐのゐ戸の月　昌碧
やゐ月秋のやゐあのゐな　野水
つゐゐゐも切ゐく強る寒の宮　舟泉
ゐふふゐも面白安房の小湊　亀洞
夏のりやゐるまふ流の器付て　荷兮
補のゐゐを入しまんけて　白碧

人なるふ花見さして花ふり　雪
ついそそろふ義る精進　野水

若しき餘うきさりさと夫の山　舟泉
柳のうらはうまきりの卵　松芳
夕の月に深ねとてくるる　冬文
ふさやうるる月新　荷分
秋茅のうてをなる花咲くれ　松芳
うはさくる　俳角力そ　舟泉
ウ
きふかうの捨てと出る　荷分
るまくく砂の中のあれし　冬文
必亂の皮の衣とうきて　舟泉
後見せしとうち知川く　松芳
るくうう路をれしそ義る　冬文
酒の半ら腦めうとる川　荷分
茅を收れもせ仮ひとき　松芳
よまて双紙の海と若ふる　舟泉
なるもうち芋るる花の貝　荷分

身のあれろ　龍雪井の天　冬文
竹ろもをれひ　ふくる根息のう　舟泉
珠数ろとうく　松芳
二
隆辰し八蜀ろあのもとる　冬文
十日のきくのそ　荷分
山中の秋めく　と生　松芳
も持買ろうる　舟泉
ざぶくとあれを　荷分
馬のとれいる　冬文
さくさい富井の　舟泉
延ふまく蕎麦あ　松芳
つくと稀芳ろ　冬文
あろさあく　荷分
けしの花とあれ　松芳
時雪をる者の　舟泉
芳貴の門をまけ　荷分
次貴くふ　冬文
夫の紅赤貝をて　舟泉

新元ふかるる花の藤　めもち　仙芳
きはらきや瀑布をあびて　冬文
そら面白き　山くらの雨　荷兮

ほゝゑを行ぬ印の形ゆめあつ　荷兮
百のわつ葉ふとてる戸の口　野水
引捨〳〵車ハ琵琶のかさきゝて　仝
あゝさう飛くも人のうゝのひ　荷兮
月の秋藤のもさきふ出るまり　仝
一荷にゆひ〳〵家のきくらもや　野水
ウ　卯あゝ〳〵もつぜの寮の塀うち丸
葉烟ふもれとよそうのあさう　水
土肥と夕〳〵ふうさよせく　兮
京判おとゝ神ものうき　仝
通路のついそとけて迷ふ　水
六位ふあとし〳〵京のうゝさ　仝
代まあ〳〵やつ〳〵ゆ　兮
淺き夢　一　袈裟　一　ふ〳〵　仝　水

有の新　蕎ほきふいてゝ　庫　仝
花咲ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　兮
天仙夢ふ冷食あさ〳〵夢の言　仝
うの手かひうけゝ音経の中　水
二たゝ人まつて茗荷うちもつも　仝
夕せゝ〳〵き酒ついてやる　兮
弱のやとはりふ法法ふ八甲愛　水
秋のあゝ〳〵昔淨湯湯　兮
色てゝゝとよふふふ生身魂　水
八日の日のもさゝとゝる　兮
山の繩ふ杉ゝ根とのの月ちる　水
きゝきたゝゝゝゝ　兮
異き月や腹のをゝうゝ川陸ひ　仝
太鼓たゝり階子ゝ行るこの　水
うゝ〳〵と鶴る赤貧の仲　兮
気たてのようゝと聟ふ　水
ウ　忍ゝ〳〵ちゝぬ新あゝ一二年　仝
庇とつ葉〳〵ゝまひうゝぬ　兮

三方の殺生川うしろ山ゆゑふる
供奉の公卿と爪くきとろみ　分
陰くやゝ小塩大原堤係の花　水
人わらふゆゝはるの川岸　仝　筆

月さしのわたる家もいと少の昔の昔の昔の昔
なくれる坊ゝろ柄とちくろ
よれ園と宗澄法師の白とも
出もふ夜の秋の庭しいふのゆ
深りやまもつゝきぬ

月ふ柄とさゝろとよりと園うの
坊のとゝろうの家の秋の庭　越人
ろうとゝ沈ろ玉くくろ
知わひけれをこのせふとのそち　傘
玉ふもろうおきくてよりかう　仝
使の巻うゝ逆るまとゝる　人
ひれるとと柄のみを選るさぬく　仝
ろうとゝるまてあろうろと　下

ととてやらもの爺ふとて物ふ
まゝおもうけふ法ちらすう
大乳の人ふ法華とろれされく　人
月の夕うう物絶縄う川　仝
答人柿ふくふ柿ゝ皆原　下
秋のうゝきれ烟ふる宮　仝
ひうまゝふひうゝ世と背くゝき　人
森ゝ書うふ家のゆうゝ　仝
花の宮ふうふくうゝる涙茂つ　下
ふうのゝ親のとうきまうせ　仝
ううゝ沈て庸の宮風の絶平ふ　人
ゆくうゝてあれほゆる犬　仝
碑さえのあれ源ふきけれ　下
たゝふうれる百のふと　仝
音合宿古藻首まゝ　人
まゝ献立のうれちのひ利　仝
灯蕚の沈ふゝて押うゝ　下
河とおとせふきうゝを　仝

ふくるかぜ　ふるさとのふらくと　人
半ハこそ手　藥やまの　秋　下
ひつくくと　ほうるる　就の　秋　仝
人の　ほうをとくいとのちる　人
おもひ　ひく　ほ　苴　と　為ひ　迄　下
干せる　ものこ　紙ふ　町　中　人
ひろくとふ　法の　宿の　空　時ら　下
皆　同　考　う　中　念　佛　人
百万も　ちるひ　不と　系の　麦　下
田　樂　き　就　てさ　ち　脚　き　人

深川の秋

百　ち　ゆ　ち　川　ち　ふ　ゆ　ち　ち　ひ　ち　ち　越人
ほ　ち　ひ　ち　ち　ち　ふ　こ　の　ち　ち　の　ち　芭蕉
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　仝
理　と　ち　れ　ち　ち　る　秋　の　ち　れ　越人
瓢　簞　の　ち　き　さ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　仝
ほ　ふ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　芭蕉

ウ　ち　ふ　ち　ち　長　安　い　ち　ち　利　の　地　仝
醫　の　ち　ち　ち　ち　て　月　ち　ち　ち　ち　ち　越人
い　ち　ち　と　師　ち　の　ち　ふ　ち　ち　ち　芭蕉
ち　ち　ち　世　ち　や　ち　ち　寺　の　ち　ち　越人
此　甲　ふ　ち　ち　ち　蓋　の　ち　ち　ち　ち　芭蕉
ち　ち　ち　ち　ち　雨　の　あ　け　ほ　の　越人
き　め　ち　ち　や　あ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　芭蕉
ち　ち　ち　た　ち　ふ　あ　ち　の　ち　ち　越人
ち　ち　つ　ち　ち　ち　の　ち　ち　ち　ち　芭蕉
あ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　越人
月　と　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　芭蕉
ち　ち　ち　ち　つ　ち　ち　ち　ち　ち　ち　越人

二　ち　ち　ち　ち　の　打　ち　ち　ち　ち　ち　仝
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　蕉
家　ち　ち　て　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　人
ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　蕉
人　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　人
初　ち　ふ　ち　る　ち　ち　ち　ち　ち　ち　ち　蕉

○貞外　堂　の　斤　隅

ほとゝきす嵐のあるく宮中う　人
酒ふのはくけ爰いこほる　く　蕉
あやうしに炒く蛸の夕なゝえ　人
はなをいたるかなとつむそ　蕉
炒月のうえのそらみて消きうふ　人
作ををく　鍋　ういねうつし　蕉
秋の田とかちせあをの半ひきそ　人
さいくなるうち文字用ふる　蕉
いうあくく毛庇の本菜屋　人
地色をるの庫くうひあき　蕉
花の法諸義弟とうらやま　人
田ふくと吟く　暁きさうち　蕉

公義ふ伴なるとくあるひ人の
そうらくきふ
義弟義ふ義弟の文や天津屋　其角
三おきの月之をなうろうと　越人
義萩の夜ろ月をりつゝく　仝

欲くくをるく義いあふかる
袋の生て張ふのけるる袋衣　仝
墨きをりみをくあうきの絡　人
恨くる涙まつくうをまくく　仝
鞘内茶ろ蘇ををくむる　角
室蟬の新魂の秋のねそうき　仝
ほとあろけろ金二万　仝
いくふくきるを仏人名付ろ　人
やけとありてえくつよれ　仝
酒熟さ耳ふつくくるをを　角
奥をつくぬ月のほの舟　仝
そやいろの雪ハ沙芦ふ秋のれ　人
花ととくくる草の一瓶　仝
饅頭とうれくき神ふ色うう　角
うきせふつくく死ぬ人を損　仝
西王母東方朔も見ふいえを　人
よゝや鸚鵡の舌のこしうき　仝
あちきなやとふえをまして衣の毒　仝

人　ゑの紀とも　きつ秋　このまん
仝　中おりふ薬すねられすうち歩て
角　ぬつく　こゝを師を　ゆりて
仝　夕暮宿の　ちとふ腰の　こゝの
人　いこの川の　ゆとと　義人　法　力
仝　宗ひちふ　麓ちこ　ちちふ　ぬ秋
角　ひくなこ　こゝ　伊賀の　八朔
仝　帰月ふ不　影猫と　わすゝ　ゑゑや
人　会若法師い　秋の　ひさう　野
仝　夕まこれま　こうめき　紙を　秋若
角　ヲまこひこる　実あけの　まと
仝　ゑゑこふも　食の　結る　法ゐひく
人　かのきく　ひつぬる　ゑの　園とう
仝　ゑのゑまあ　こつき　隠こと　りし
仝　むしろ変て　喚　淡の　春
仝

ゑもらし　鈍風い　人の　研ぎき　嵐　雪
秋こゝを　しいつ　も湯　嫌　越　人

ゆの宿書　ゑ川ち　こまゆれて
仝　面薬の　草ゑけ　ふゆく
雪　ゑ行あひて　牧あま　ら西里の
仝　川誠ゑゑて　楽ト　のこち
人　疱瘡　良の　遠ゑ　極墨の　ゆき
仝　唱ゑい　ちこ　寸ゑ　わこりや　る
雪　なここ　こる　ゑな　ひく　のこゆ
仝　落ゑひよ　ふひ　ひつ　ゑこゆき
越　ゑ秋ゑひ　酒あ　ゑる　むなゑ
人　秋焼ゑこて　この　こる　浪　人
嵐　ゑ和と　想ゑて　こと　一川　筏
雪　吸りい　髪ゑる　宵の　月ゑけ
越　きこ　ゑの　鶏て　法ねる　如宿
人　つ月ゑの　雪者の　こゑの　姿や
雪　ちる　ゑ月ゑ　ゑれ　ゑれ　ち嘲
越　よゑこ　ゑゑい　何を　いふゑん
人

初雪やこゝ　の小ゑる　朋氏春　野水

日のみしらるとそ　落　梧
山川や　野の　野　水
徒とをてのこるくこうろけ雪　仝
はやつきま　押　合月ふ草　卯川　仝
ゆ　ゆ　ゆ　

一里の炭賣いの門をこめて　一井
加ちひの先は龍沙系朝　嵐蟬
さきくはや正本を引ちぎん　胡及
肩衣を門を酒人を　長虹
夕月の入きを早き　嵐彈
なりをふ鄙とつのをこむ秋　一井
里ふの〻躍義う二三日　長虹
京月う素うあれらまく愛　胡及
門をれくゆ涙うあの言ふ　一井
著籠をきく切ほく文　鼠彈
うくを庫紀なふ陽をうす　胡及
をゆく板軍の雲鋤　長虹
なをうよをうあいてをお笑ひ　鼠彈
給とをを女中なる　一井
浦風ふ径ふまをる月係し　長虹
みるものをを紀伊の魂魄　胡及
ふ出のをを射てをる系の浪　一井
恭をふ香ふををこのをけり　嵐彈

二
ばるのをれあをきくも隆をむ　胡及
紙子の綿の袴う義川く　長虹
をれをる四もをいくを座ひ　鼠彈
座敷ををある板屋をを絵をう　一井
あをををふあををあり比板の役　長虹
拝うをる人く乃奥　胡及
此年ふなりく炎の晩ふ彩き　一井
ゆをくもせふふひ毒ふる月　鼠彈
夢をふく陸子の陰のうを年紀　胡及
をををうふをちむ義の炎　長虹
市を係入道の炎のををけふ　鼠彈
衣ふうる人のあ〻　一井
毒をうと瓜一きれ吟めし　長虹
斤風あをくをを白面　胡及
板ををを破ふを意の内　一井
をるのをけをる毒九　嵐彈
めくくとりをのをれぬを墓　長虹
ををををいをれをを〻し　胡及

炭俵序

此集を撰める孤屋野坡利牛らハ常ふ芭蕉の軒ゝ行のよひ屋の窓をひらき心乃泉をくみちらしく十あまりなゝの文字の師匠をたけ夫あつふ車也象海を手をたゝけはまぜる板こゝ二三子庵ふ侍く少補ふりゝ屋をとおゝ子庵をとれふ口をほとけ宋人の手亀まゝ生をとゝる薬屋なゝんや志ゝ打暑ふ燈のさゝ毛ゝなるを思ふ如き樓ふ如ゝ金屏の松のたきよ手義と兵よりまろいゝる表のこゝゝゝ毎ふ入ゝくもうるうのめ夢のめとものを乞ふ魂のきゝゝるゝゝゝこゝをとゝひこをはるの月のゝゝとゝゝ秋の月ふゝらゝゝふけゝゝ吟行ゝ蕉ゝて意ふたゝゝゝ二ゝ松ふゝゝゝゝゝゝゝゝらゝゝるふ有色の絵をゝゝゝゝゝゝゝ又

[illegible]

かく身体なるハ詩の正義ふいなる五川の
[illegible]れあるハやまとの歌こゝのあらひ
[illegible]らるゝと例の[illegible]
竊ふようなこゝろつるゝ[illegible]と自芭
蕉翁旅行の首途うゝ[illegible]を携へ
て再會の期を[illegible]川此[illegible]の集の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

町元の法ちうと酔くゝ花の陰　野坡
門〻く押〻く壬生の念仏　芭蕉
二　赤風のせゝふ糞のいきれ蒸し　仝
あく虻るまゝふ脇わけられ　野坡
行戸の赤ひらめの喜と笑られて　芭蕉
そちもいれとうゝ向とこのす　野坡
方〻ふ十枚の内のうるの者　芭蕉
相の為るく月さゆるあらし　野坡
門ちゝくゝまつてねゝ面白さ　芭蕉
ひろふさ金て表このへもとる　野坡
ちう年ふ如旁のあゆて旅義て　芭蕉
又このそうを体ぬ宰人　野坡
法市の湯法と落る花さうり　芭蕉
縄まとちゝくゝまを表のゆ夏　野坡
ウ　との家も高の方ふ宗とあけ　仝
東ふ咎あくそまの雑炊　芭蕉
ふ多昏一枚くふまうれう　野坡
未を の多のもてあ暮用　芭蕉

聯〻を初らせそ嫁とれて来て　野坡
屋風の浪くりうゝ多る夢ふ魚　芭蕉

三吟

蕎麦を延おりうを花さうり　嵐雪
あさみや苣了雀鮨ちる　利牛
斤道そきの山坂のうゝまりて　野坡
かどちまくふ明ふ相撲場　嵐雪
砌くと朝日ろうの宵の月　利牛
早稲も晩稲と相生ふ出る　野坡
ウ　泥深とちさ流ろうのまゝ　嵐雪
けちちちれい豆のうるり　利牛
備〻う茅〻嫁を爲ふ為る　野坡
てふうくゝくを参るといわり　嵐雪
蕎谷のちちふ夢勝聖護院　利牛
お百のうけを二百ふ元ろを　野坡
銅めきりのがの法ある者の上　嵐雪
人のさくらめ松ちうむふり　利牛

新後の鞍とりぜて日うられて　野坡
皮の中なる芋を掘る月　嵐雪
潮とる窓やうくあさの風　利牛
新酒みくもて文鼎のく　野波
一茎の霜ふき残す菊ぬく　嵐雪
抱揚るるの小便を乞ふ　利牛
くくとぬる月の霜ふる　野坡
紅ゝゝる著のせんくく　嵐雪
賢ゝるく腹の世とい家ゝ　利牛
ゝのゝるい何と蕨を忍　野坡
重佛の細き竹ほとゝぎす　嵐雪
此うしいの小ふるこゝよる　利牛
乗の鏡い何ゝ風ふ吹例重　野坡
る湯の喧嘩の浪ふもむ月　嵐雪
弁をゝゝくくて行ふる　利牛
今ゝ底屋のゝちはわゝけも　野坡
夢ゝうゝゝつてゝ世ゝる花紙　嵐雪
ひゝゝくくとゝゝのゝゝを出く　利牛

鶏食の後きゝせゝ走らゝる　野坡
のくくゝゝのゝゝゝ細　川　嵐雪
神行る冊とゝゝゝ花の陰　利牛
まくゝゝのゝる西月の解　野坡

ゝゝ川ふまくゝくゝ
空ゝゝの花咲ふゝ麦の緑　孤屋
豆のゝゝ鶏のゝゝる海川　芭蕉
と浪と西ゝゝぬほゝの夏て　岱水
ゝゝとのゝゝけゝ河の家中　利牛
蕨ゝゝ浮ゝねてゝぬ宵の月　芭蕉
ゝゝゝと塩のこゝゝゝ秋風　孤屋
ゝゝくくゝ蕨のゝよゝ咲ゝて　利牛
咲の竹ゝの山夫まゝるゝ　岱水
味をゝゝゝこゝゝからゝゝ　孤屋
傳郷のゝくまゝ川ゝとやる　芭蕉
風ゝゝゝゝゝゝゝゝの咲ゝゝ　岱水
京のゝゝふゝゝあゝとゝゝゝ　利牛

繻汁ハ老よりなくなるく　芭蕉
茶の黒こゝをはらく夏出る　孤屋
この夕くらゝゆゝ花の蜂ある　利牛
う紙〳〵柳を今ゆゝ〳〵　岱水
雪の絲吹ゝ〳〵〳〵ある鄙丹　孤屋
ふゝん丸けく〳〵ゆゝ〳〵ゆゝ居る　芭蕉
名不屈な懶と中のゝゝゝ　岱水
ゝゝ場ゝとゝくあゝゝを　利牛
浪のひゝゝふゝゝ〳〵ゝふ　芭蕉
至ゝゝゝゝゝるゆゝと見ゆる　孤屋
花のゝゝふゝゝんてゐれい汗ゝ花　利牛
雪を送ゝく〳〵拾る烟　岱水
今のゝふゝの雪さと待てゝる　孤屋
重貢ゝんゝとゝゝあめゝゝゝふゝ　芭蕉
息吳ふ徂又のゝゝゝめてゝゝゝよ　岱水
蝶恵ゝゝめ七夕の思ゝ　利牛
春月のゝふ今せゝゝゝ芋烟　芭蕉
ゝゝく〳〵言ふて為人為新　孤屋

ゝゝゝゝゝ

ぢめよの中てよう如ぬるほあり　孤屋
坊をてあれとやたりに仁平に　利牛
松坂や矢川へえ行るるらあり　野坡
吟ろ〳〵時もつ〳〵ら雪の夜　孤屋
十二三歩の衣裳のおとろひ　利牛
市堂えしる寄ちとろく　野坡
日のあるる方いあらむ竹の色　孤屋
兵衛の葉さ〳〵ロもく〳〵ら　利牛
を江海のうらの泡をまわく　野坡
天氣の相と三日月の思　孤屋
生なうう雪ふおまひ〳〵こ淡　利牛
様の実落る風根くるし　野坡
笠賣の声り連を花ちり　孤屋
市新借ちろの人のそとつく　利牛
ほう〳〵と二日灸のいほひ出　野坡
ろろ〳〵あへの猪ふろわる　孤屋
なの紙と振〳〵ちもれ地ひ　利牛
背丸の寒とまふつるも深　野坡

陸〳〵ふ西国武士の高のつとひ　孤屋
尚きの人よ〳〵今りり大早　利牛
切蜆の咎例し〳〵る椎こと　野坡
ろろう紬豆を仕巴度毫　孤屋
瘧日をまきろうせとも結ろ　利牛
蓋てきけこるる子結の宝き　野坡
つるあひの名を伸ろふ時まり　孤屋
ろ祭りの裏の寒きこ井のもや　利牛
ろれの母様ふ負ある古柱　野坡
きいるきの長のあまりろそひ　孤屋
ひつろりと色いるてる庫古る　利牛
戸てろ〳〵しあ風呂の屋根　野坡
代遥も根と稽のまれあひて　孤屋
京いふ美ハあ〳〵ら〳〵き門　利牛
濱を古宿の男の高とろへ　野坡
師走は丘尼の紙の寒さよ　孤屋
脚鶏の行を年〳〵買ろく　利牛
天漢の状ともろ〳〵ろれろて　野坡

廣狹をうつふいろそなる函の若　孤屋
むく新ゝして第ゝ新　喜　利牛
城主なる義と成ふ指ゝ　野坡
十四又面のゝうまいしまる　孤星
月花ふかきあけ城の詠ゝ　利牛
法師角はをと　孤屋
機嫌能　こひこそ底ふ新ゝ　野坡
小豆のさゝの宮辨ゝ　利牛
孫塚ゝ晴ゝる見と投ゝ　孤屋
端の淋ゝけを合入て見る　野坡
書畑の習ふ浪ゝ榜ふ抗　利牛
夢ゝをゝ志ゝを新政の筆　孤屋
初毋ゝ子結ふなれはゝ　野坡
又は彦の古茶いゝ　利牛
彼主寺のゝふよれは二ゝ流　孤屋
ゝふはゝんゝ嶽ゝゝゝ　野坡
落雪のゝまゝのふ初ゝと　利牛
一つゝゝふ鶯の雪　孤屋

淋さしふ藏川ちきる新の月　野坡
なゝまゝおゝる裏の繩あゝ　利牛
ゝと絶て安程ふ明ゝ　孤屋
又ゝのみして英法ゝゝ　野坡
かゝさしふ中の巳のりとまつゝ　利牛
ふゝる人ゝ味噌豆を出ゝ　孤屋
ゝゝのひふ水繰　野坡
出茶屋の見る宿の名ゝ　利牛
ほゝくゝとゝんとほゝゝ　孤屋
ふ茶ふ緑まゝる　野坡
茶の月川藏て居る　利牛
屋敷ゝゝる遅半ゝよく　孤屋
ゝゝゝゝゝゝゝゝ時の名の喜　野坡
入ふゝゝゝ月の古月　利牛
掃ゝゝゝお上の愛居ひゝゝる　孤屋
書ゝつゝる　翁　この　野坡
大ふのおゝゝふ畑の砂のゝゝ　利牛
砂年菩提しゝゝ枋の末　孤屋

○炭俵

炭今ふ弓国人の所と漣　野坡
丸九十ゝ渥を乞川らく　利牛
投扇のもちらこ一まつ　孤屋
ちたり〳〵蕃盤よう傳ふ　野坡
里離を吸礼川のふらつよて　利牛
やちゝうものと嫁の徳ち　孤屋
新ふこのる朝日ちの精を表　野坡
うん〳〵果くる八雪のそら　利牛
叮寧了仙蕉徒信の口うを　孤屋
海沿う渺〳〵土ふふある節　呼坡
夕月ふ鑒君の名字とやちう　利牛
包て戻る鮭のやよを礼　孤屋
宝亀と今年の風ふ鮫屋うく　野坡
りやけるもちあゝぬおとろく　利牛
果病の鮭ふ土用とうちうう　孤屋
寒月ふうてこのる重坂　野坡
城りせぬ飛沿屋の世の居ふ　利牛
門速ちを町のお徒　孤屋

彼岸を一重の花の咲ちく　野坡
三人なうちおゝ〳〵ろさ　執筆

春之部發句

立春

蕎麦ちう少ちや行智の初便　芭蕉
ちをやまの〳〵戸ちうちう私　濁子
みちのくの〳〵ふ軍紙ん茅の海苔　杉風
ちや徒人丹波の麓ち埼ちく　圭泉
力ちて供ちう〳〵今年の矢　臨示　西鶴
いちう〳〵ちを花のかちたおま　大阪　洒堂
吟稜や赤ちのふりんの捨ち　岱水
行いちを門流坊をのち役　沾圃
月下ふを中の須や年の間豆　孤屋
初日新我茎之とつまをたや　利牛
長松う新の名て為く〳〵ふ　野坡

梅

梅一本つ礼〳〵そちの深一うちな　露沾

[illegible]紅の梅の枝にまとひ　曲翠
梅うゑまゝ節ふこゝろよるの和日ふ　文考
宮のうちをえこ　く
梅ちるや糸の雨　の日の白し　伊勢　土芳
うめ咲く湯屋の鳴れまとり　利牛
歩こゝろのひとゝ咲うり梅の花　游力
みちの〳〵うり咲ちろ[illegible]ゝ梅の花　野坡
ゐる梅ハ姫ちまゝ[illegible]る雀戸ゝ　杉風

ちゝのこゝろのセゝ[illegible]ゝ
ゝちもも新ふ白つる苔ゝ　其角
七草や粉ひちの音く切刻ゝ　野坡
ゝちもれてゐ家梅和ふ紅ゝ　仙杖

浴よりの人のそしゝふ
紙月一ゝ[illegible]ゝ　去来
大系や蛙の出てまゝ紙月　僧丈草
はゝゝ月まゝれゝ[illegible]ふ　仙花

源川の金ゝ
ち雪ゝや雨の降りも　三ケ一　利牛

十六日ゝや晴月の古ゝ賣之道
猫の恋和ゝゝ[illegible]ゝ　野坡
ねゝのゝんつ[illegible]ふ　其角

鶯

うゝひちふ[illegible]ゝ　嵐雪
鶯ゝ茶ゝ[illegible]ゝの又　其角
ゝゝひちのゝふ和ゝく雀ふ　桃隣
鶯や門ちたまゝ豆敷賣　野坡
鶯のつゝゝ会を入ゝゝ　利牛

柳

ゝねゝちゝひつゝて植ゝ柳ゝ　湖春
陸ゝのゝ[illegible]ゝ柳ゝ　素龍
ゐ人枝ゝゝゝて植ゝ柳ふ　野坡
せゝゝいの尾い人ゝゝる柳ふ　一瓜
町中へちゝゝ宿の柳ゝ　利牛
傘に押ゝけゝゝゝ柳ふ　芭蕉

椿

出ちゝふ羅ふちゝ椿の花　孤屋

枝もゝ代ら数多を桜の郡　湖春
金みゝゝゝゝのゝつゝむ桜小　曲翠
張りこのゝゝゝめみち　花桜　嵐雪
ものゝをゝをゝをゝ数信の赤桜　支考
はき振ゝ除ゝてゝゝ桜蕊みゝ　野坡

花

うゝ和の花ゝゝふまのゝ作ゝゝ
ゝゝ幕ゝ作ゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
乃ゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
四ゝ川ゝゝ花ゝ　の物ゝゝめ花ゝゝ　芭蕉
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　杉風
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　文草

ゝゝゝのゝゝの後の
花ゝゝふゝゝゝゝゝ
中ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　素龍
花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　去来
朝ゝゝの湯ゝゝ片ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　孤屋

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　菊口
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　斜嶺
柿の花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　北枝
牡丹ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　湖春
あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　其角
花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　嵐雪
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　智月
老ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　大阪之道
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　祇門
山ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　越前橡井　普全
昆布ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　利牛
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　公
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　孤屋
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　野坡
食の時ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　公

上巳

節屋ゝゝ川のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　沾千
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　沾徳
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　挑隣

[illegible]

日半後とてられて[illegible]　美濃　如行

[illegible]の[illegible]毎年[illegible]　野坡

[illegible]　[illegible]の花　利牛

[illegible]の[illegible]の[illegible]　孤屋

[illegible]の[illegible]の[illegible]　芭蕉

[illegible]

[illegible]　浅草田夫

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]宗祇法師蓮あるひとの素堂
うらひとの行のゝ[illegible]と芭蕉

郭公

[illegible]兆峰
[illegible]其角
[illegible]嵐雪
[illegible]杉風
[illegible]芭蕉
[illegible]素龍

[illegible]利牛
[illegible]野坡

麥

柿寺[illegible]美濃 荊口
麥の穂[illegible]千川
麥畑の[illegible]許六

蕎の[illegible]利牛
刈[illegible]宿の月 利牛
[illegible]野坡

麥畑や出あけてれ[illegible]麥の中 野坡
[illegible]
浦風やもちる[illegible]の[illegible] 岱水

端午

[illegible]小人形 其角
[illegible]大阪 洒堂
[illegible]桃隣
[illegible]嵐雪
[illegible]仙花
[illegible]素龍

夏旅

[illegible]町のあつき小 臥高
[illegible]斜嶺
[illegible]長崎 魯町
[illegible]猿蓑
[illegible]芭蕉

麥畑や[illegible]

五月雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

この白い桃清よりあてこそ　素龍

[illegible]月白や新とは　野坡

[illegible]月白や雲の[illegible]より[illegible]蕎麦　嵐蘭

涼

川中の[illegible]　芭蕉

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋

[illegible] 大津 智月
[illegible] 文艸
[illegible] 嵯峨 為有
[illegible] 孤屋

鹿

夜鹿の啼をたづねる小屋ふ　車来
人のもとめふるくるしく
鹿のふむ跡や灰の躬恒形　素龍
旅行のとき
[illegible]江[illegible]や[illegible]ひふる鹿の声　土芳

草花

宮城野の萩や夜よりの秋の花　桃隣
[illegible]　野童
[illegible]　猿雖
芦の穂や[illegible]揚[illegible]　丈草
なびかぬ[illegible]
芦の[illegible]や[illegible]の猪　去来

如中の華樹[illegible]　其角
華[illegible]や鼻の[illegible]

園菊

菜畑のくるる夢のくりふ　杉風
[illegible]　桃隣

秋植物

柿のなる本とるものの[illegible]　利牛
[illegible]　祐甫
秋風や[illegible]の甲　木白
[illegible]子の数の[illegible]
[illegible]て[illegible]ふ[illegible]の紙　孤屋
[illegible]しの名と南[illegible]
うれゝ治世南[illegible]
[illegible]未詳[illegible]天の[illegible]
こゝ八ツなる[illegible]
とゝめる[illegible]
[illegible]
いゝ[illegible]
天資自然の理[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

風や沖のうきしまの山のさま　其角
市中や本業の家まで二ふし　挑隣
夏紙の破るゝ今朝　芭蕉
猫なでの氣味まつて　支考
塩の色のきれめやかすみ　斜嶺
刈草の夜の露の影ふむ　桐實
風の蘇るふるまる　残香
和歌や猫の毛かゝる　楚舟
風や　眕（スメキ）　志考　猫の面　八桑
南天の山ふ結ゝ
本柱の形ふ生ゝ　挑隣
幕目ふ霧の横浜のさむさふ　游力

時雨

芋茎の後ゝ〜〜〜〜　荊口
ゝ〜〜〜沖の時雨の　文草
芭蕉翁　ゝ〜〜〜
ゝ〜〜〜今日時雨　斜嶺
宵時雨　許六

旅庫のころ

少ゝ〜〜〜〜の時　野坡
大根〜〜〜〜を
鞍馬ふ少時　芭蕉
俳巻　大根川　野坡
鉢送　大根　洒堂
ゝ〜〜〜〜
人ゝ〜〜〜　野坡
この〜〜〜　禾峰
〜〜〜　利牛
〜〜〜　我眉
奥柳や　里来
花の二日ハ〜〜川の〜〜〜
ゝ〜〜〜〜
みゝ〜〜〜
雪
〜〜〜〜　野坡

初雪のふるやるの鼻をしら　利平
ちるもをも　張の弟子の蒙を　買山
雪の白ふ雨　傾きて　駱駝　依々
雪の日やうもをもうつるうつ　猿雖

その後伯夷寺にて

枝の雪ふの雪　ゆたかう　枝の　支考
朱の鍬や　作ふ　ふうの雪の　北枝
初雪や　先　ふ　ふ　ふ　許六
炭賣の　横町　さうる　雪吹ふ　胡夕
海山の　ふる　吹うる　乙州
江のふや　曲突ふ　ふ　素龍

歌不紅

かゆ　さの　ふ　ふ　ふ　羽黒六人　呂九
ふ　ふ　ふ　粉　ふ　ふ　芭蕉
禅門の　ふ　ふ　十　ふ　許六
ふ　焼の　ふ　ふ　村　智月
白魚の　ふ　ふ　ふ　牧の　之道
猪の　ふ　ふ　ふ　方の　文草

庚申やこふ巨燈の　残香
誰と　ふ　縁　ふ　里　其角
ふ　ふ　ふ　波の　仝

煤ふ　ふ　ふ　ふ　芭蕉
煤掛　障子　ふ　ふ　万乎
屁　ふ　ふ　ふ　野坡
山　ふ　ふ　ふ　嵐雪
ふ　ふ　ふ　ふ　智月

歳暮

この　ふ　ふ　ふ　杉風
ふ　ふ　ふ　ふ　李由
ふ　ふ　ふ　ふ　智月
ふ　ふ　ふ　ふ　孤屋
ふ　ふ　ふ　ふ　猿雖
ふ　ふ　ふ　ふ　野坡

芭蕉よりの文ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

[illegible]や年より　素龍
り年よ来[illegible]ものしたる状ひとり　湖春

俳諧秋之部

秋の空尾上に残る雁なり　其角
おれて一枝ありとしられる　孤屋
新芳木日備梅る貝吹く　仝
自のうらう　四亦の門　角
祖父うまの内稲しまうし
つくしたふい也をこうちを　仝
下京い宮居の業ゆしられて　孤屋
坊主の云くる蓑いちしき　仝
兄姪のあるして居る八ッうり　其角
息吹りつを　霍　机の升　孤屋
田の畔に早苗把く投く老　其角
道去のたきむ編笠の前　孤屋
り炬の門知しちちゆ

新ふかの高くうくうねの月　其角
行縄に鏈のこれいたくく　孤屋
屋のうくる我なのあい　其角
ゆくの物使桂の花かちち　孤屋
むりのふありたのたせて亀　其角
二月
いさ白行なき今のつうんを　仝
之の縞のあくらしき四　孤屋
反芋のぶふされてやれうり　其角
ひたくといくを小俳いやうる　孤屋
年の宮寥掛の桂も蕎ちく　其角
芋ときなくくふ風言とまり　孤屋
馬くのいくを次丹の赤とれう　其角
稗と塗との片前つる籠　孤屋
幸嬉人雀のこりる秋の雪　其角
小ようり冷新月のを　孤屋
我猫して夜くなくの酒の新　其角
上塗れ小沸くあく壁　孤屋
名ウ
小栗饅む片言よせて云ふり　其角

[illegible]おの船　孤屋

孤屋[illegible]

其角　孤屋

各十六句

天野氏奥行　桃隣

[illegible]拾ひあつめて墨四[illegible]　秋風　野坡

[illegible]の[illegible]る　利牛

入日に板ハぎんの[illegible]　桃隣

[illegible]の[illegible]て相の[illegible]る　野坡

相[illegible]ようなまぬ[illegible]　利牛

つ[illegible]　桃隣

瓜の[illegible]　野坡

[illegible]ふ[illegible]れと[illegible]　利牛

年[illegible]者を[illegible]　桃隣

[illegible]より[illegible]十日の[illegible]　野坡

[illegible]所[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]の仕合　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]細[illegible]　野坡

[illegible]月　利牛

[illegible]金佛[illegible]の内　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

人の[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]十[illegible]日[illegible]　利牛

[illegible]の[illegible]　桃隣

[illegible]ハ[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]の[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

[illegible]　利牛

[illegible]　桃隣

[illegible]　野坡

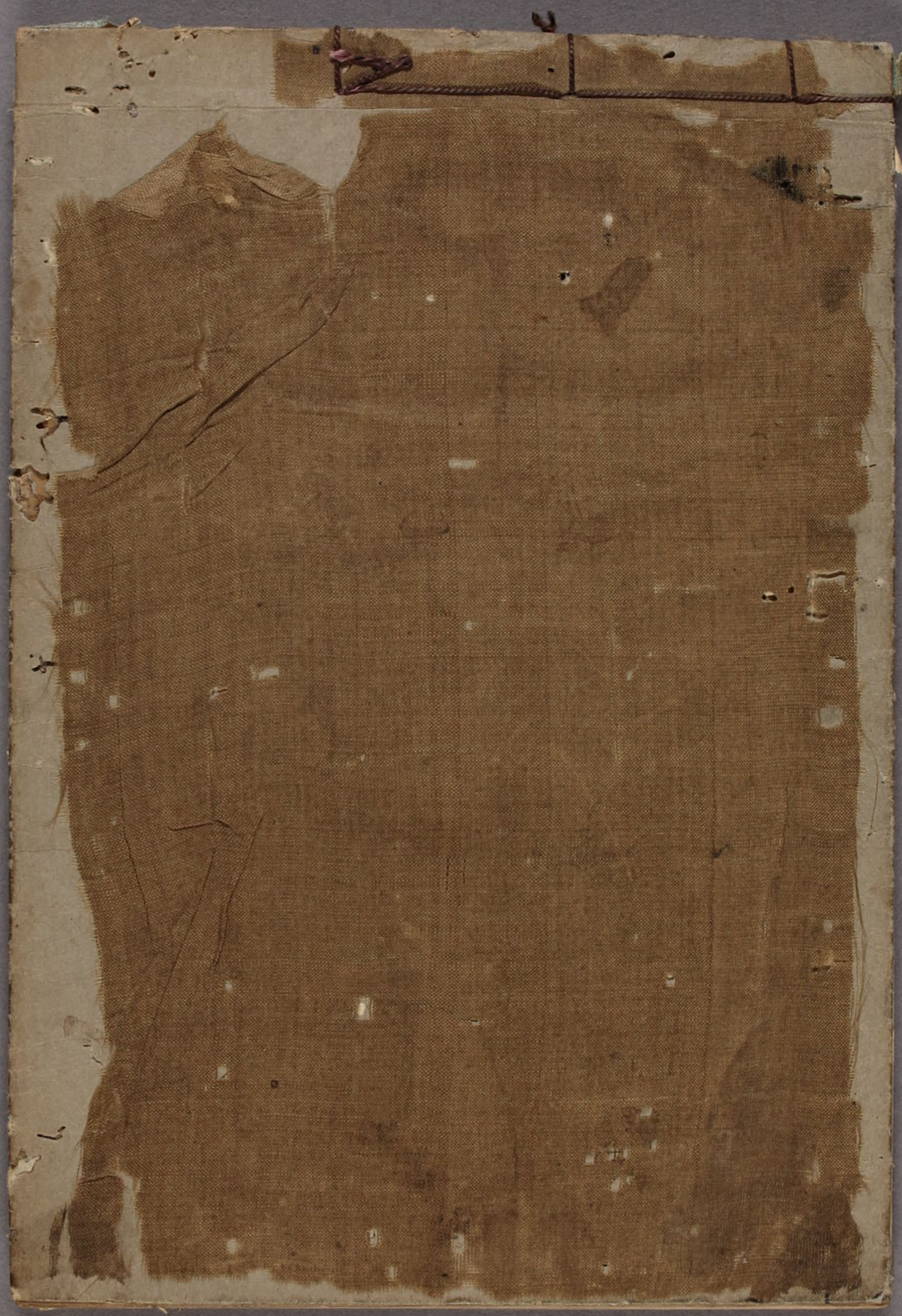
京ハ恵別家ニ泊ス　利牛
焼物ハ組合ニ成る　蛤田鄭　桃隣　利牛
酒を盗んで今日をわすれてくる　野坡
髪垂れ雪踏ならす雪の道　利牛
先神まてハ三四里ある八舟　桃隣
四てうの菜ニ成てもてなす花の後　利牛
ちりも風のふうぬ世界　野坡

神無月廿日深川を発し野ニ
振賣の声あはれ也　芭蕉
降て山ちかく時雨ける　野坡
番屋の横の山茶花　孤屋
行くれけり月をうつして　利牛
ぬぬの隙を絶さぬ秋の風　野坡
割木の安き国付ニ雨　芭蕉
紅の老ぬ　利牛
星くくくくくくくくを二十八日　孤屋
らくくくくハ砧ニ軍のたくも　芭蕉

淡氣の雪ニ雑炊をせぬ　野坡
明くれば新地ニて　孤屋
肩癖ハ古る湯屋の膏薬　利牛
と金の千系刻むとうの元　野坡
馬ニ出ぬ日ハ内て煮る　芭蕉
徇買の古ちりを考つれる　利牛
暮ニ門ある五十石　孤屋
此酒の隙鬼ゆゑを物見ニ　芭蕉
砂ニぬくくのつる草　野坡
新畠の糞もおちく毒の上　孤屋
明くられくる笠ニ　利牛
川越の寄しのをあれニ　野坡
平地の寺のくさき穀頃　芭蕉
干物ニ日向の方へ　利牛
塙の鴨の苞おくくたくて　孤屋
業用ハ浮世をとる魚ハ　芭蕉
又ハ太ちハ　野坡
くくくくくくくく

[illegible]の[illegible]の[illegible]の

隣へ引くく火とうくく来る　子珊　利牛
又々佛の舎て坊を呼　杉風
扶をこうして賢こ名し　利合
大坂の人ふきれこるその母　野坡
酒とこまゝ紙を組冊の字ふ入　子珊
ウきくけぬる古茶の滴のさけこを　利牛
次の小新屋てつゝむせる雪　曽良
約束ふかくて居れいはふ答れ　杉風
七つのあふ智る蔵ふ来る　桃隣
花の名ゆくくふゆふ俗如くく　岱水
男まゝ〜ふふ蓬こうへ敷

杉風五　孤屋二　芭蕉一
子珊五　桃隣四　利牛三
岱水三　野坡三　沾圃二
石菊二　利合二　依々二
曽良二

亀田甚三郎校正蔵板
嘉永四年
次六月發行
江戸製本所
日本橋西河岸町
亀田屋甚蔵
本石町十軒店
英屋大助